

平成29（2017）年度入学者

専門教育科目

《専門教育科目 専門基礎科目群》

科目名	基礎ゼミ I		科目ナンバリング	HOAA11001	
担当者氏名	大平 曜子、多田 章夫、吉田 薫、木下 幸文、朽木 勤、河野 稔、加藤 和代、樽本 つぐみ、矢野 琢也、米野 吉則				
授業方法	演習	単位・必選	2・必修	開講年次・開講期	1年・I期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力	◎ 1-1 社会・文化・自然・健康を理解する（知識・理解） ○ 1-2 科学的根拠となるデータ・情報を収集する（情報収集力） ○ 2-1 健康課題に対処するための方法を学び、現代的ツールに習熟する（専門的技術力） ○ 3-1 人間を理解し、適切な指導ができる（専門的知識）				

《授業の概要》

「基礎ゼミ I」は、知的活動への動機づけを高め、科学研究のためのオリエンテーション機能を果たす科目です。複数のチュータークラスが合同になって1つのゼミを編成し、大学教養の範囲を越えない基礎領域の課題を用いて、大学での学びのスキルを学習します。少人数の演習形式の授業の利点を活かし、学生と教員がコミュニケーションを取り合い、相互に尊重し合い、高め合う効果も期待されます。

《授業の到達目標》

①ノートテイキング、②文章表現やレポートの書き方、③情報収集と文献検索（図書館の利用法を含む）、④口頭発表やプレゼンテーションなど、専門領域の枠を超えて、大学での学びに必要な基礎的な知識と技能を身につけることを目標とします。

《成績評価の方法》

レポートの提出や学習成果の発表など（60%）、授業時の提出物など（40%）
 なお、提出物にはコメントを付して返却し、発表には講評をします。また、オフィスアワー等で質問を受け付けます。

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など
1	オリエンテーション	授業の到達目標、進め方、学習方法などを説明します。また、大学での学びと社会との関わりについて考えます。
2	学習のスキル	高校までの学びと大学での学びの違いについて考えます。また、4年間の大学生活や1年間の目標をたてます。
3	ノートテイキング	ノートテイキング（ノートの取り方）の意義について考え、ノートテイキングの技術について学習します。
4	資料の収集	図書館の利用や文献検索について学習します。また、インターネットを活用した情報収集と情報に対する批判的態度について考えます。
5	文書作成の基礎 I	要約の手順と書き方について学習し、短い文章を使って要約の練習に取り組みます。
6	文書作成の基礎 II	キーワードやキーセンテンス、接続詞に注目しながら、要約の練習に取り組みます。
7	文書作成の基礎 III	要約のまとめとして、新聞記事や本の要約に取り組みます。また、要約した文章を相互評価します。
8	レポートの書き方 I	一般的なレポートの書き方やその手順について学習します。また、テーマ（問い）の立て方についても学習します。
9	レポートの書き方 II	レポートのテーマを決定し、インターネットや図書館を活用して、資料を収集します。また、参考文献の書き方や引用の仕方を学習します。
10	レポートの書き方 III	レポートの構成を考えて、アウトライン（骨組み）を作成します。また、ワープロソフトを活用して、レポートを作成します。
11	レポートの書き方 IV	レポートを書くときの作法にしたがって、レポートを作成します。また、作成したレポートを相互評価します。
12	プレゼンテーション I	プレゼンテーションの作り方について学習します。個人発表の準備として、プレゼンテーションのアウトラインを考えて、絵コンテを作成します。
13	プレゼンテーション II	絵コンテの内容をもとに、画用紙などを用いて、プレゼンテーション用の資料を作成します。また、発表の練習に取り組みます。
14	プレゼンテーション III	それまでと異なる組み合わせの複数のチュータークラスが合同になり、個人発表を実施して、相互評価を通して改善点を確認します。
15	総括	全体のまとめとして、これまでの学習で得られた成果をふり返り、総括します。

《テキスト》

適宜プリントを配布します。

《参考図書》

学習技術研究会編著（2015）『知へのステップ 第4版』くろしお出版
 その他の参考図書や資料は、適宜紹介します。

《授業時間外学習》

自らの学習課題を明確にし、授業に主体的に臨めるように、またその課題を克服するように努力して下さい。

《備考》

授業計画は目安です。進捗状況によって進行が異なる場合があります。図書館の利用法は時間に変更される場合があります。アクティブラーニング・ゾーンを使用することがあります。

科目名	基礎ゼミⅡ	科目ナンバリング	H0AA11002
担当者氏名	樽本 つぐみ		
授業方法	演習	単位・必選	2・必修
		開講年次・開講期	1年・Ⅱ期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力	<ul style="list-style-type: none"> ○ 1-1 社会・文化・自然・健康を理解する（知識・理解） ○ 1-2 科学的根拠となるデータ・情報を収集する（情報収集力） ◎ 1-3 問題解決に向けて効果的な情報提供ができる（情報発信力） ○ 2-4 自らの行動を検証し、行動の修正や開発を行う（応用力） 		

《授業の概要》

近年、健康志向の高まりによりジョギングやマラソンは人気のスポーツであるが学校体育では苦手なスポーツでもある。本講義では長距離を走るための生理的特性を理解するとともに、トレーニングの効果を自分の身体で体得する。それら長距離走の必要性をレポート作成および発表、表現する(加古川マラソン大会出場)ことが目標である。基礎ゼミⅠで学んだ内容をより深めていくことが必要である。

《授業の到達目標》

(1)長距離走に必要なテーマを挙げ、それぞれについて情報を収集できる。(2)調べた内容を発表し、自分の考えを表現できる。(3)協力して実験を行い、レポートを作成できる。(4)その成果をマラソン大会において発揮する。(5)本講義で学んだ内容を自らの生活に振り返ることで、競技力(パフォーマンス)の向上や生活習慣病改善のための知識を身につけることができる。

《成績評価の方法》

(1)(3)(4)についてはレポート提出、(2)(3)(5)は発表の内容で評価する。評価の割合は、レポート50%、発表50%とし100点満点で60点以上を合格とする。レポートにコメントを付して返却する。

《テキスト》

テキストは使用しない。必要に応じて資料を配付する。

《参考図書》

「長距離走者の生理科学」平木場浩二(杏林書院) 「スポーツトレーニング理論」伊藤マモル(日本文芸社) 「ランニング解剖学」ジョー・プレオ著(ベースボール・マガジン社)

《授業時間外学習》

①授業終了時に次回のプリントを配付するので読んでおくこと。②長距離走に関する新聞や雑誌の記事を切り抜き要点をまとめて提出し発表する。③12に開催されるマラソン大会に出場するとともに、大会を支えているボランティア活動を体験する。そこで「走る、見る、支える」側面からマラソンについて理解し発表する。

《備考》

アクティブラーニングゾーンで授業を実施する場合もある。

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など
1	オリエンテーション	授業担当者を決定し、授業の流れを説明する
2	長距離走とは	長距離を走るための身体の構造を理解する(体組成、脳、肉、骨、ホルモンなど)自分の身体を理解する(体組成測定)
3	トレーニング計画作成	トレーニングの効果を理解し、トレーニング計画を作成する(①ジョギング・ペース走 ②インターバル練習 ③全力走)
4	ジョギング、ペース走の効果	個人にあったペースを算出し、ジョギング、ペース走の効果を理解し実践しレポートを作成する
5	栄養・水分補給の効果	長距離走のための栄養や水分補給の効果について理解する
6	インターバルトレーニングの効果	個人にあったペースを算出し、インターバルトレーニングの効果を理解し実践しレポートを作成する
7	筋力トレーニングの効果	長距離走のための筋力トレーニングの効果について理解する
8	スプリントトレーニングの効果	スプリントトレーニングの効果を理解し実践しレポートを作成する
9	休養の効果	長距離走のための休養の取り方や心理的な効果を理解する
10	全力走の効果	全力走の効果について理解し実践しレポートを作成する
11	環境への適応	環境に適応するためウェアの効果等について理解するとともに大会にピークを合わせるピーキングについて理解しレポートを作成する
12	マラソン大会出場	大会に出場する、ボランティア活動を経験する、応援するこれら3つの側面(する、見る、支える)から調査しまとめる
13	発表(1)	研究および調査した内容を発表する
14	発表(2)	研究および調査した内容を発表する
15	長距離走についてまとめ	長距離走について理解したことをまとめる

《専門教育科目 専門基礎科目群》

科目名	基礎ゼミⅡ	科目ナンバリング	HOAA11002
担当者氏名	矢野 琢也		
授業方法	演習	単位・必選	2・必修
		開講年次・開講期	1年・Ⅱ期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力	<ul style="list-style-type: none"> ○ 1-1 社会・文化・自然・健康を理解する（知識・理解） ○ 1-2 科学的根拠となるデータ・情報を収集する（情報収集力） ◎ 1-3 問題解決に向けて効果的な情報提供ができる（情報発信力） ○ 2-4 自らの行動を検証し、行動の修正や開発を行う（応用力） 		

《授業の概要》

基礎ゼミⅠで学んだこと、身につけたことを土台に、スポーツに関する専門的なテーマでそれらの能力をより向上させることを目的として展開します。新聞、雑誌、TVなどあらゆる情報からスポーツに関するトピックスを選出し、その内容を理解すると共にそれらをより深く理解するために必要な事項について学びます。その上でプレゼンテーションやレポート等でそれらの理解度を確認します。

《授業の到達目標》

第Ⅰに指導者として必要なプレゼンテーション能力（聞く、理解する、ポイントを見つける、まとめる、書く、発表する）を身につけます。その上で、そのための情報収集の力も身につけることを目標とします。運動生理学やトレーニング論等の基礎知識を学びながら、それらの重要性や学ぶことの重要性を理解することも目標とします。

《成績評価の方法》

レポートと授業における発表で評価します(100%)。レポートの提出は期日厳守です。原則遅れは受け取りません。不明な点等は、オフィスアワー等で質問を受け付ける。

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など
1	オリエンテーション	授業の進め方や評価方法等を説明する。
2	指導論	スポーツ指導者としてのあるべき姿について討論する。
3	コンディショニング	コンディショニングについてその構成要素等を考える。
4	トレーニング計画	トレーニング計画についてその内容や重要性等を考える。
5	スポーツ障害	スポーツ障害、特にオーバーユースに関して考える。
6	成長期のトレーニング	成長期におけるトレーニングの在り方を考える。
7	スポーツイベント	オリンピックやW杯などからトレーニング計画等について考える。
8	運動生理学（筋）	筋組成（速筋、遅筋）の特性を理解する。
9	運動生理学（パワー）	パワーについてその概念を理解する。
10	運動生理学（筋持久力）	筋持久力に関する基礎知識を理解する。
11	運動生理学（全身持久力）	全身持久力に関する基礎知識を理解する。
12	運動生理学（エネルギー）	エネルギーに関する基礎知識を理解する。
13	運動生理学（性別、エイジング）	女性、高齢者に対するトレーニング効果について理解する。
14	運動生理学（ディ・トレーニング）	ディ・トレーニングに関する基礎知識を理解する。
15	まとめ	これまでの内容をまとめる。必要に応じて情報等を補足する。

《テキスト》

特に指定しません。必要に応じて資料を配布します。

《参考図書》

「入門運動生理学第3版」杏林書院、「競技力向上のトレーニング戦略」大修館書店、「ストレンクス&コンディショニング」ブックハウスHD、「スポーツ・健康科学」放送大学

《授業時間外学習》

新聞や雑誌等で積極的に情報を収集するようにしてください。また、実際にスポーツをしたり、観戦するなどスポーツに関わる行動を積極的に行ってください。

《備考》

トレーニング指導者を目指す人のための授業を行います。真剣に学びたい人が、より多く学べるように積極的に展開しますので、皆さんの積極的な姿勢を望みます。

科目名	基礎ゼミⅡ	科目ナンバリング	H0AA11002
担当者氏名	加藤 和代		
授業方法	演習	単位・必選	2・必修
		開講年次・開講期	1年・Ⅱ期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力	○ 1-1 社会・文化・自然・健康を理解する（知識・理解） ○ 1-2 科学的根拠となるデータ・情報を収集する（情報収集力） ◎ 1-3 問題解決に向けて効果的な情報提供ができる（情報発信力） ○ 2-4 自らの行動を検証し、行動の修正や開発を行う（応用力）		

《授業の概要》

深刻化しているいじめ・不登校・虐待などのメンタルヘルスの問題、飲酒・喫煙・薬物乱用、10代に広がる性感染症など身近な健康問題をテーマに、情報を収集し、課題に対する自分の意見や対策への提言をまとめていくことで心と体の健康への関心を高め、適切な行動化へつなげることをねらいとする。また意見交換の方法、提言を伝えるプレゼンテーションの方法等も身につける。

《授業の到達目標》

- 資料検索方法ならびに適切な資料を丁寧に読み取ることができる。
- レポート作成、発表、意見交換により健康をより科学的に捉える。
- 「自らの健康上の問題や課題」も明らかにし改善することができる。

《成績評価の方法》

発表（50%）レポート（50%）で総合的に評価する。
レポートは、評価コメントを加えて返却する。

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など
1	オリエンテーション	授業の進め方を説明する
2	現代的健康課題	青少年の現代的健康課題、ヘルスプロモーション
3	情報収集 レポートの書き方	情報収集 リーディング 情報整理、レポートの構成
4	健康課題とその対策を考 える（1）	性感染症 10代に広がるクラミジア 性のネットワーク
5	健康課題とその対策を考 える（2）	AIDS HIV感染症 エイズ教育 エイズと社会
6	健康課題とその対策を考 える（3）	薬物乱用 危険ドラッグ 薬物依存 幻覚 禁断症状
7	健康課題とその対策を考 える（4）	喫煙 肺がん 副流煙 たばこ人形実験
8	健康課題とその対策を考 える（5）	虐待 ネグレクト マルトリートメント
9	健康課題とその対策を考 える（6）	不登校 引きこもり 登校支援
10	プレゼンテーションの 方法（1）	プレゼンテーションとは シナリオの組み立て スライド作成
11	プレゼンテーションの 方法（2）	発表原稿（ノート） リハーサル
12	発表（1）	プレゼンテーションの実際、質疑応答、意見交換、プレゼンテーション評価シート
13	発表（2）	プレゼンテーションの実際、質疑応答、意見交換、プレゼンテーション評価シート
14	発表（3）	プレゼンテーションの実際、質疑応答、意見交換、プレゼンテーション評価シート
15	まとめ	学修内容の確認 レポート修正

《テキスト》

指定しない。必要に応じて資料を配布する。

《参考図書》

「学校保健の動向」平成27年度版
（財団法人日本学校保健会）
その他随時紹介する。

《授業時間外学習》

示されたテーマについて、文献や資料をもとに自分の意見や対策への提言をまとめ、意見交換の場に活かす。

《備考》

発表時の質疑・意見、指導講評をもとに修正した最終レポートを提出する。
アクティブラーニングゾーンを利用することもある。

《専門教育科目 専門基礎科目群》

科目名	基礎ゼミⅡ	科目ナンバリング	H0AA11002
担当者氏名	古田 薫		
授業方法	演習	単位・必選	2・必修
		開講年次・開講期	1年・Ⅱ期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力	<ul style="list-style-type: none"> ○ 1-1 社会・文化・自然・健康を理解する（知識・理解） ○ 1-2 科学的根拠となるデータ・情報を収集する（情報収集力） ◎ 1-3 問題解決に向けて効果的な情報提供ができる（情報発信力） ○ 2-4 自らの行動を検証し、行動の修正や開発を行う（応用力） 		

《授業の概要》

新聞記事を用いて、教育の現代的課題を考察することを通じて、批判的読解力、情報収集力、情報分析力、表現力、課題発見力の向上を目指す。

《テキスト》

必要に応じて資料を配布する。

《参考図書》

山里 亮太、三田村 昌樹『ニュースの読み方教えます!』ヨシモトブックス、2013年。

《授業の到達目標》

- 情報の概要をまとめ、伝えることができる。
- 必要な情報を収集し、関連性を理解して解釈することができる。
- 他の人の意見に耳を傾け、自分の意見を発表できる。
- 情報を批判的に読み解き、自分の考えをレポートにまとめることができる。
- 情報を総合的に判断し、新たな課題を発見できる。

《授業時間外学習》

テーマに沿った情報収集・調査を行い、自分の考えをまとめたレポートを作成すること。
授業での発表用のレジュメを作成すること。

《成績評価の方法》

受講態度（ディスカッションへの参加度等） 30%

発表 30%

提出物 40%

※提出物はコメントを付して返却する。

《備考》

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など
1	オリエンテーション	授業の進め方、新聞記事の構造と読み方
2	テーマⅠ： 部活の外部委託	新聞記事の読解と要約
3	テーマⅠ： 部活の外部委託	関連する情報の分析と発表
4	テーマⅠ： 部活の外部委託	テーマについての意見交換とまとめ
5	テーマⅡ：児童虐待	新聞記事の読解と要約
6	テーマⅡ：児童虐待	関連する情報の分析と発表
7	テーマⅡ：児童虐待	テーマについての意見交換とまとめ
8	テーマⅢ： 問題児童生徒への対応	新聞記事の読解と要約
9	テーマⅢ： 問題児童生徒への対応	関連する情報の分析と発表
10	テーマⅢ： 問題児童生徒への対応	テーマについての意見交換とまとめ
11	テーマⅣ： モンスターペアレント	新聞記事の読解と要約
12	テーマⅣ： モンスターペアレント	関連する情報の分析と発表
13	テーマⅣ： モンスターペアレント	テーマについての意見交換とまとめ
14	レポートの発表1	各自で選択した新聞記事についてのレポートの提出と発表
15	レポートの発表2 まとめ	各自で選択した新聞記事についてのレポートの提出と発表 まとめと振り返り

《専門教育科目 専門基礎科目群》

科目名	基礎ゼミⅡ	科目ナンバリング	H0AA11002
担当者氏名	米野 吉則		
授業方法	演習	単位・必選	2・必修
		開講年次・開講期	1年・Ⅱ期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力	○ 1-1 社会・文化・自然・健康を理解する（知識・理解） ○ 1-2 科学的根拠となるデータ・情報を収集する（情報収集力） ◎ 1-3 問題解決に向けて効果的な情報提供ができる（情報発信力） ○ 2-4 自らの行動を検証し、行動の修正や開発を行う（応用力）		

《授業の概要》

「からだ」を窓口にしなが、健康や教育に関するテーマについて考察し合い、問題解決に向けた提案を具体的に示して発表してもらいます。単に知識を伝達するという授業ではありません。日頃の生活でどのような問題意識をもって課題を見出し、解決に向けた方略を見つけていくのかという、自己や社会の発展に必要な力を身に付けます。

《授業の到達目標》

- ・設定された問題に対して、必要な情報を収集しまとめることができる。
- ・問題意識をもって取り組むべき課題を見出し、根拠のある考えを説明することができる。
- ・他人の意見や仮説に対して、論理的に批判することができる。

《成績評価の方法》

発表(50%)と提出物(50%)のみで評価します。
 ※提出物についてはコメントを記入し返却します。

《テキスト》

指定しない。

《参考図書》

「こどもたちのライフハザード」 瀧井宏臣 岩波書店 2004
 「こども大変時代」 産経新聞「生命」取材班 産経新聞 2007
 「「学力」の経済学」 中室牧子 ディスカヴァー・トゥエンティワン 2015

《授業時間外学習》

評価の対象である発表や提出物の作成は、授業時間外で行います。資料集めや実地調査なども同様です。

《備考》

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など
1	オリエンテーション	授業の概要等を説明する。
2	利便性と生活(1)	利便性がもたらした生活の変化と心身への影響について問題提起と諸説を述べる。
3	利便性と生活(2)	学生の発表、質疑
4	利便性と生活(3)	再発表、まとめ
5	子どもの食卓(1)	現代の食事の仕方、偏食、アレルギー、食育などについて問題提起と諸説を述べる。
6	子どもの食卓(2)	学生の発表、質疑
7	子どもと食卓(3)	再発表、まとめ
8	早期教育と脳(1)	早期教育の是非について脳科学の視点から問題提起と諸説を述べる。
9	早期教育と脳(2)	学生の発表、質疑
10	早期教育と脳(3)	再発表、まとめ
11	ヒトの進化と身体(1)	ヒトの進化の中でみる身体の不思議について問題提起と諸説を述べる。
12	ヒトの進化と身体(2)	学生の発表、質疑
13	ヒトの進化と身体(3)	再発表、まとめ
14	個別テーマ(1)	個別のテーマ設定しまとめて、発表、質疑する。
15	個別テーマ(2)	再発表、まとめ

《専門教育科目 専門基礎科目群》

科目名	基礎ゼミⅡ	科目ナンバリング	H0AA11002
担当者氏名	朽木 勤		
授業方法	演習	単位・必選	2・必修
		開講年次・開講期	1年・Ⅱ期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力	<ul style="list-style-type: none"> ○ 1-1 社会・文化・自然・健康を理解する（知識・理解） ○ 1-2 科学的根拠となるデータ・情報を収集する（情報収集力） ◎ 1-3 問題解決に向けて効果的な情報提供ができる（情報発信力） ○ 2-4 自らの行動を検証し、行動の修正や開発を行う（応用力） 		

《授業の概要》

基礎ゼミⅠで学んだこと、身につけたことを土台に、健康づくりに関する一般社会の情勢についてさらに深く学び、専門的な立場として望まれている役割について考え、そのために必要な能力を向上させることの大切さを理解し、今後の学習の方向性を定める一助としたい。特に最近注目される健康経営に関して、その制度や現状を調べ、課題や可能性について理解する。

《授業の到達目標》

指導者として必要なプレゼンテーション能力（聞く、理解する、ポイントを見つける、まとめる、書く、発表する）とそのための情報収集の力を身につけることを目標とする。また、健康経営とはなにか、社会における健康経営の意義と健康づくりの専門的な視点から、身体活動・運動の重要性を理解することも目標とする。

《成績評価の方法》

発表(50%)と提出物(50%)で評価する。
わからないことは、オフィスアワー等で質問を受け付ける。

《テキスト》

特に指定なし。必要に応じて資料を配布する。

《参考図書》

「健康経営」推進ガイドブック、岡田邦夫（経団連出版）、早死にする仕事、長生きする仕事 働き方を変えれば、寿命は10年延びる！、古井祐司（マガジンハウス）、企業・健保担当者必携！ 成果の上がる健康経営の進め方、森晃爾（労働調査会出版局）、先進10事例に学ぶ「健康経営」の始め方、井上俊明（日経BP社）

《授業時間外学習》

評価の対象である発表や提出物の作成は、授業時間外で行う。資料集めや実地調査なども同様。

《備考》

健康経営は、健康運動実践指導者、健康運動指導士の新たな仕事領域として期待できると考える。

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など
1	オリエンテーション	授業の進め方や評価方法等を説明する。
2	健康課題の概観	現代社会の健康課題、健康寿命格差、死因と介護原因と運動の意義
3	健康施策の変遷（1）	厚生労働省の健康施策の特徴、健康運動指導士の役割
4	健康施策の変遷（2）	厚生労働省の生活習慣病対策、特定健診・特定保健指導と健康運動指導士の役割
5	健康施策の変遷（3）	厚生労働省の現在の重点課題、データヘルス計画
6	健康施策の変遷（4）	厚生労働省と経済産業省の取り組み、コラボヘルス、健康経営
7	健康経営の基礎（1）	経済産業省の健康経営戦略、健康経営の意義
8	健康経営の基礎（2）	健康経営の認定（大企業）、健康経営銘柄、健康経営優良法人（ホワイト500）
9	健康経営の基礎（3）	健康経営に認定（中小企業）、健康経営優良法人
10	健康経営の基礎（4）	東京都の健康企業宣言・健康優良企業認定（銀、金）
11	健康経営の基礎（5）	東京商工会議所の取り組み、健康経営アドバイザー（初級、上級）
12	健康経営の事例	大企業、中小企業の事例
13	発表（1）	プレゼンテーションと質疑応答、健康施策としての健康経営の意義
14	発表（2）	プレゼンテーションと質疑応答、健康経営の可能性
15	まとめ	報告書の提出。これまでの内容をまとめる。必要に応じて情報等を補足する。

科目名	基礎ゼミⅡ	科目ナンバリング	HOAA11002		
担当者氏名	河野 稔				
授業方法	演習	単位・必選	2・必修	開講年次・開講期	1年・Ⅱ期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力	<ul style="list-style-type: none"> ○ 1-1 社会・文化・自然・健康を理解する（知識・理解） ○ 1-2 科学的根拠となるデータ・情報を収集する（情報収集力） ◎ 1-3 問題解決に向けて効果的な情報提供ができる（情報発信力） ○ 2-4 自らの行動を検証し、行動の修正や開発を行う（応用力） 				

《授業の概要》

「基礎ゼミⅠ」の学習成果をもとに、実践的な活動を通じて、大学での主体的・能動的な学びに必要な「スタディスキル」の定着を目指します。

テーマとして「情報倫理」を扱います。ICT（情報通信技術）が社会や実生活に役立つ側面とトラブルや犯罪などの問題となる側面に着目し、技術的な知識だけでなく倫理的・法規的な知識も深め、情報社会の問題点を指摘し、その解決策を考えます。

《授業の到達目標》

- 自ら設定したテーマについて、多様な情報源を調査できる。
- 収集した情報をもとに、レポート等の資料をまとめられる。
- 発表や意見交換を通じて、新たな問題や課題を発見できる。
- 情報倫理に関する諸問題を、幅広い視点から考察できる。

《成績評価の方法》

ワークシート等の提出物（20%）、口頭発表と相互評価（40%）、調査票および調査結果報告書（40%）で評価します。なお、提出物にはコメントを付して返却するとともに、口頭発表には講評をします。また、オフィスアワー等で質問を受け付けます。

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など
1	オリエンテーション	ゼミの進め方について
2	情報倫理の概説(1)	インターネットの光と影／スタディスキルとは？
3	情報倫理の概説(2)	情報社会での最新事情と諸問題
4	情報倫理に関する調査の準備(1)	質問紙調査とは
5	情報倫理に関する調査の準備(2)	テーマの検討、調査対象の検討
6	情報倫理に関する調査の準備(3)	先行研究や統計資料の調査(1) 調査の実施
7	情報倫理に関する調査の準備(4)	先行研究や統計資料の調査(2) 調査結果の発表
8	情報倫理に関する調査の準備(5)	リサーチクエスションの検討
9	情報倫理に関する調査の準備(6)	フェイスシートと質問項目の検討、調査票の作成
10	情報倫理に関する調査の準備(7)	予備調査の実施、調査票の調整、調査の依頼
11	情報倫理に関する調査	調査の実施、調査票の回収
12	情報倫理に関する調査の分析(1)	調査結果の集計
13	情報倫理に関する調査の分析(2)	調査結果の分析・考察／報告書の作成
14	情報倫理に関する調査の分析(3)	調査結果の発表、相互評価／報告書の作成
15	授業全体のまとめ	報告書の提出／学習の振り返り

《テキスト》

テキストは使用しません。必要に応じて、プリント等の資料を配布します。

《参考図書》

- 情報教育学研究会・情報倫理研究グループ編(2014)『インターネットの光と影 Ver. 5』北大路書房。
- 石村貞夫・加藤千恵子・劉晨・石村友二郎(2014)『Excelでやさしく学ぶ アンケート調査と統計処理2013』東京書籍。
- その他の文献や資料は、適宜、授業で紹介します。

《授業時間外学習》

- 予習では、ゼミで指示された文献・資料について調査し、その成果と自分の意見をまとめます。また、質問紙調査の実施のために、先行研究を調査します。
- 復習では、他の受講生の発表に対する感想や意見を、レポートにまとめます。また、質問紙調査の実施のために、先行研究やゼミでの討論をもとに、質問項目を検討します。

《備考》

ゼミ形式の授業は、参加者間のコミュニケーションをお互いの学びあいに発展させる、大学での学びの基礎になるものです。意欲的に参加する態度を希望します。

科目名	生物基礎	科目ナンバリング	HBAS31005
担当者氏名	市村 豊		
授業方法	講義	単位・必選	2・必修
		開講年次・開講期	1年・I期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力	◎ 1-1 社会・文化・自然・健康を理解する（知識・理解）		

《授業の概要》

本講義では、毎回の授業ごとに異なるテーマを設けています。特に生体・生命のしくみに関する知識に重点をおいて、生物の基本単位である細胞の機能と構造から学習を進め、最後の免疫系の学習に至るまで、全体の授業で生体・生命のしくみの概要を幅広く網羅した内容となっています。

《授業の到達目標》

健康・医療・栄養の専門家を目指す学生に必須となる生物の基礎知識を身につけることを目標としています。今後履修する専門科目の受講に先立って、幅広く生命・生体についての理解を深める基礎基本となる講義です。

《成績評価の方法》

アチーブメントテストの成績を主とし、この他に授業中に行う小テスト及び平常点を加味して評価します。※三度実施する小テストをコメントして返却し定期試験にフィードバックさせる。定期試験の得点率を考察し次年度の到達目標に反映させる。（アチーブメントテスト70%、平常点30%）

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など
1	生物とは 細胞の構造と機能	生物体の特徴（生物と無生物）について学ぶ。 生体内への物質の出入り
2	生命体を構成する物質	主役はタンパク質 生体元素と生体を構成する化合物について学ぶ。
3	酵素と化学反応	酵素は生体内のさまざまな化学反応を促進する触媒について学ぶ。 いろいろな酵素（消化とは）
4	代謝と呼吸 小テスト	生体内での物質交代とエネルギー交代について学ぶ。 呼吸とは生きるためのエネルギーを獲得すること
5	生殖とは	配偶子の形成とヒトの性決定について学ぶ。 親から子へ形質は伝わる（メンデル性遺伝）
6	ヒトの遺伝	血液型・赤緑色覚異常・染色体異常・遺伝子変異 などについて学ぶ。
7	遺伝子の本体と タンパク質合成	DNAの構造と複製について学ぶ。 遺伝子からタンパク質へ 転写と翻訳
8	体液とその働き 小テスト	体液の種類と循環のしくみについて学ぶ。 酸素の運搬・血液凝固
9	肝臓・腎臓の働き	ものを作り、蓄え、分解する化学工場の肝臓について学ぶ。 体液を浄化し尿を生成する腎臓
10	神経系の構造と働き	刺激から反応まで 神経伝達物質による刺激の伝達について学ぶ。
11	自律神経系と内分泌系	自律神経はアクセルとブレーキ（拮抗的作用） 内分泌系（ホルモン）による持続的な調節について学ぶ。
12	体温・血糖量等の調節 小テスト	自律神経とホルモンの連携による体内環境の調節（フィードバック調節）について学ぶ。
13	生体防御免疫	免疫・体を外敵から守るしくみ。 体液性免疫と細胞性免疫について学ぶ。
14	免疫と疾患	疾患と医療（予防接種・自己と非自己・エイズ など）について学ぶ。 抗原抗体反応と血液型
15	まとめ アチーブメントテスト	学習の総括と評価

《テキスト》

「新課程版 フォトサイエンス生物図録」
数研出版編集部編（数研出版）

《参考図書》

「タンパク質の一生 ー生命活動の舞台裏」永田和宏（岩波新書）
「細胞のはたらきがわかる本」伊藤明夫（岩波ジュニア新書）
「DNAがわかる本」中内光昭（岩波ジュニア新書）
「カラー図説アメリカ版大学生物の教科書」全5巻 グレイグ・H・ヘラー他著（ブルーバックス）

《授業時間外学習》

授業で使用する図解はかなり高度な内容であり、ヒトの生命について判りやすく解説してあります。授業中に指摘したポイントを図解を利用してしっかり復習し、3回行う小テストで満点を目指してください。分からないについては授業終了後に質問を受け付けます。

《備考》

ヒトの生活に必要な栄養と健康。今後履修する栄養や健康の専門分野に関連する生物学上の話題を取り入れながら、人体の構造・機能を中心に基礎的な知識を習得します。

科目名	健康科学序論		科目ナンバリング	HOAA11003	
担当者氏名	多田 章夫				
授業方法	講義	単位・必選	2・必修	開講年次・開講期	1年・Ⅱ期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力	◎ 1-1 社会・文化・自然・健康を理解する（知識・理解） ○ 1-2 科学的根拠となるデータ・情報を収集する（情報収集力） ○ 2-1 健康課題に対処するための方法を学び、現代的ツールに習熟する（専門的技術力） ○ 2-2 複合的に絡み合う問題に気づく（知識の統合） ○ 2-3 構築された理論に基づき判断し、行動する（総合的判断力・実践力）				

《授業の概要》

健康と疾病は連続性を持っている。普段は当たり前のように考えがちな「健康状態」は、実は壮大かつ精巧な生体メカニズムによって維持されている。健康科学序論の授業においては、健康状態およびその維持についてのメカニズムを理解することで「健康であること」の大切さを再認識し、疾病予防や健康づくりに役立てる。

《テキスト》

指定しない。

《参考図書》

各単元毎に必要なに応じて紹介する。

《授業の到達目標》

- 1 生体が健康を維持するためのメカニズム（恒常性の維持、調節機構等）を理解する。
- 2 生体の健康維持機能の破綻によって疾患が発生するメカニズムを理解する。

《授業時間外学習》

- 1 次回の授業範囲を予習し、概要を把握すること。
- 2 毎回授業後、ノートを整理し、重要なポイントを理解すること。
- 3 日頃から、健康状態について関心を持つよう心掛けること。

《成績評価の方法》

- 1 定期試験80%、小テスト20%の割合で評価する。
- 2 私語等講義の妨害となる行為や風紀を乱す行為を行った者は、欠席もしくは減点の対象となる。

《備考》

講義中は、他人の迷惑にならないよう最低限のマナーを守ること。

小テスト終了後、解説を行い、また、閲覧可能とする。

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など
1	健康の科学的な解明	健康状態について科学的に解明するためのポイント（ホメオスタシス、生体防御、再生と分化、遺伝子発現等）の概略を理解する。
2	個体の調節機構	生体の内部環境の恒常性を保つホメオスタシスの概念を説明でき、血圧、体温、血糖値の恒常性について概略を理解する。
3	体温の調節機構	自律神経系や内分泌系による体温の調節（発汗、ふるえ、血管収縮、代謝）を理解する。
4	血糖値の調節	生体内において血糖値を調節するホルモンの種類や、自律神経によるホルモン分泌調節機構を説明できる。
5	細胞と細胞周期	生体における細胞の種類（上皮細胞、骨細胞、神経細胞等）や細胞周期におけるそれぞれの時期（M期、G0-G2期、S期）の意味合いを理解する。
6	組織の再生、細胞の分化	組織・臓器の再生及び医学において用いられる幹細胞（胚性幹細胞や体性幹細胞）の利点・欠点やiPS細胞について説明できる。
7	骨の形成	骨の成分や形成経路、成長期の骨の形成、思春期の女性ホルモンと骨代謝、成熟期や高齢期の骨の変化について説明できる。
8	遺伝子発現	遺伝の概念、遺伝子（特にDNA）の構造、遺伝情報の概念、遺伝子の転写機構、mRNAから蛋白質への翻訳機構を説明できる。
9	タンパク質	アミノ酸、生体における蛋白質の構造や種類（構造蛋白質、酵素、輸送タンパク質、免疫グロブリン等）とそれらの機能について理解する。
10	酵素と健康	酵素の持つ性質や機能を説明でき、さらに、日常生活において酵素が活用されている例をあげることができる。
11	生体防御（自然免疫）	免疫の概念、自然免疫の概念、主な自然免疫機構について説明できる。
12	生体防御（獲得免疫）	自然免疫との相違、獲得免疫の樹立のメカニズム、獲得免疫を担う細胞について説明できる。
13	生体防御（常在菌）	常在菌の概念、腸内や口腔内における常在菌叢の年齢的な変化、部位別相違、常在菌の持つ意義（特に病原菌感染予防）を説明できる。
14	生体リズム	生体リズム（概日リズム）の概念を理解し、人間のもつ体内時計や生体リズムを調節するメカニズムを説明できる。
15	記憶	スクワイアの記憶分類、長記憶の分類、長期記憶の忘却、原因、記憶の過程、学習について説明できる。

《専門教育科目 専門基礎科目群》

科目名	解剖学	科目ナンバリング	H0AA21006
担当者氏名	多田 章夫		
授業方法	講義	単位・必選	2・選択
		開講年次・開講期	1年・I期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力	◎ 1-1 社会・文化・自然・健康を理解する（知識・理解） ○ 1-2 科学的根拠となるデータ・情報を収集する（情報収集力） ○ 1-3 問題解決に向けて効果的な情報提供ができる（情報発信力） ○ 2-1 健康課題に対処するための方法を学び、現代的ツールに習熟する（専門的技術力） ○ 2-2 複合的に絡み合う問題に気づく（知識の統合）		

《授業の概要》

ヒトが正常な機能を営み、生きていくために、からだの中では極めて多くの精密な構造・機能が複雑に絡み合っており、からだ全体としての調和をとっている。その基準となる正常な構造・機能を十分理解しなければその変化である種々の異常を知ることには不可能である。生涯にわたる人間の健康の維持増進に寄与・貢献していくために不可欠な知識を学んでいく。

《テキスト》

イラストで学ぶ解剖学 松村譲児 医学書院

《参考図書》

各単元毎に必要なに応じて紹介する。

《授業の到達目標》

- 1 主要な臓器・筋肉・骨格・神経・血管の位置・構造を理解する。
- 2 呼吸、循環、消化・吸収など生理現象がどの臓器を用いて行われるかを説明できる。

《授業時間外学習》

- 1 次回の授業範囲を予習し概要を把握しておくこと。
- 2 毎回授業後、ノートを整理し重要なポイントを理解すること。

《成績評価の方法》

- 1 定期試験80%、小テスト20%の割合で評価する。
- 2 私語等講義の妨害となる行為や風紀を乱す行為を行った者は、出席取り消しもしくは減点の対象となる。

《備考》

本科目は教員免許必須科目であるため、講義中は、他人の迷惑にならないよう最低限のマナーを守り、可能な限り欠席のない学生の履修登録が望ましい。

小テスト終了後、解説し、また、閲覧可能とする。

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など
1	細胞・組織	人間の組織・臓器を構成する細胞の基本的な構造やそれぞれの構成要素の機能について説明できる。
2	骨と筋肉	骨や筋肉の基本的な構造が説明でき、身体における主要な骨や筋肉の名称を挙げることができる。
3	上肢の骨格や筋肉	肩関節の構成、肩甲骨・鎖骨・上腕骨の解剖学的位置、肩甲挙筋・僧帽筋・大胸筋の起始・停止部や機能について説明できる。
4	下肢の骨格や筋肉	股関節や膝関節を構成する骨、主要な腸腰筋の起始・停止部や神経支配や運動、大腿四頭筋の起始・停止部や神経支配や運動を説明できる。
5	背中の骨と筋肉	背骨の構成、脊椎の構造、広背筋・上後鋸筋・下鋸筋・回旋筋・腸筋の起始・停止部や神経支配や主な機能を説明できる。
6	頭部の骨と筋肉	咀嚼筋の起始・停止部、神経支配、機能、頭蓋を構成する骨、顔面を構成する骨について説明できる。
7	呼吸器系	胸郭を構成する骨、呼吸運動に働く筋肉（横隔膜、肋間筋）の機能、各呼吸器の解剖学的な関係について説明できる。
8	心臓・循環器系	心臓の解剖学的位置、構造、機能、心筋の特徴、体循環、肺循環、栄養動脈、刺激伝導系、神経支配について説明できる。
9	動脈・静脈系	動・静脈の構造・機能に関する相違、主な動脈の走行部位、栄養を与える臓器、脈拍を触れやすい動脈、主な静脈の走行について説明できる。
10	消化器系（1）	消化管、口腔、咽頭、食道、胃について、それぞれの解剖学的位置、構造、機能について説明できる。
11	消化器系（2）	消化管、口腔、咽頭、食道、胃、小腸（十二指腸、空腸、回腸）、大腸（盲腸、結腸、直腸）についてそれぞれの解剖学的位置、構造、機能について説明できる。
12	腹部臓器	肝臓、胆嚢、膵臓の解剖学的位置、形態、構造、栄養動脈、機能、腎臓の形態、構造、解剖学的位置、腎小体、糸球体、ボウマン嚢、尿の生成過程について理解する。
13	中枢神経系（1）	髄膜、脳室、脳に分布する動脈の走行、大脳皮質の各部位（前頭葉、頭頂葉、後頭葉、側頭葉）それぞれの機能について説明できる。
14	中枢神経系（2）	間脳、脳幹（中脳、橋、延髄）、脊髄、小脳の解剖学的位置やそれぞれの機能について説明できる。
15	末梢神経系・感覚器	中枢神経・脳神経・脊髄神経・感覚神経・運動神経について説明できる。感覚器の構造について説明できる。

科目名	生理学	科目ナンバリング	H0AA21007
担当者氏名	多田 章夫		
授業方法	講義	単位・必選	2・選択
		開講年次・開講期	1年・Ⅱ期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力	◎ 1-1 社会・文化・自然・健康を理解する（知識・理解） ○ 1-2 科学的根拠となるデータ・情報を収集する（情報収集力） ○ 1-3 問題解決に向けて効果的な情報提供ができる（情報発信力） ○ 2-1 健康課題に対処するための方法を学び、現代的ツールに習熟する（専門的技術力） ○ 2-2 複合的に絡み合う問題に気づく（知識の統合）		

《授業の概要》

生理学は、生命維持に必要な人体の仕組み、あるいは、身体運動を含む生命活動を維持している人体の基本的な機能を追及する学問領域である。これらの仕組みと機能について体系的な知識を習得するとともに、運動、呼吸、循環などの生命維持に不可欠な機能の統合的な制御を学習する。

《テキスト》

「人体生理学ノート」松根幹朗、岡田隆史 金芳堂

《参考図書》

各単元毎に必要なに応じて紹介する。

《授業の到達目標》

- 1 神経興奮伝達メカニズム、中枢神経による運動制御機構を説明できる。
- 2 末梢神経から中枢神経への情報伝達、中枢神経からの生体活動指令の伝達経路を説明できる。
- 3 呼吸、循環、消化・吸収、体温調節、内分泌など生体のホメオスタシスの維持に必須の機能を説明できる。

《授業時間外学習》

- 1 次回の授業範囲を予習し概要を把握しておく。
- 2 毎回授業後、ノートを整理し重要なポイントを理解すること。
- 3 人体の生理現象を身近な問題として捉えるよう日頃から心がける。

《成績評価の方法》

- 1 定期試験80%、小テスト20%の割合で評価する。
- 2 私語等講義の妨害となる行為や風紀を乱す行為を行った者は、欠席もしくは減点の対象となる。

《備考》

本科目は教員免許及び衛生管理者(第一種)必須科目であるため、他人の迷惑にならないよう最低限のマナーを守り、可能な限り欠席のない学生の履修登録が望ましい。

小テスト終了後、解説を行い、また、閲覧可能とする。

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など
1	生命現象	生物が生命を維持する上で必要な生理現象として循環、呼吸、代謝、神経伝達、消化・吸収等の概念を理解する。
2	細胞膜の興奮	静止状態にある細胞の膜電位及びそれを形成する細胞内外のNa ⁺ 、K ⁺ 濃度及び、刺激を受けた細胞膜に流れるイオン電流と電位変化を説明できる。
3	神経の伝達	細胞、特に神経細胞に発生した細胞膜の興奮が隣接する細胞や筋肉にどのような機序で伝達するかを説明できる。さらに、興奮伝達の三原則を説明できる。
4	骨格筋の収縮	神経細胞から伝達された興奮は神経・筋接合部でどのように伝達されるか、筋細胞に伝達された興奮により筋肉が収縮する仕組みを説明できる。
5	末梢神経	末梢神経には体性神経（運動神経、感覚神経）と自律神経があることを理解し、自律神経の特徴や自律神経における興奮伝達物質について説明できる。
6	中枢神経（脊髄、脳幹、視床下部、小脳）	脊髄反射、中脳、延髄それぞれが司る生命維持に重要な機能、視床下部が調節するホメオスタシス機構、小脳の司る知覚・運動統合機能を説明できる。
7	中枢神経（大脳）	大脳皮質の古皮質・新皮質が司る高次脳機能（知覚、随意運動、思考、記憶等）や一次運動野の分布、そして錐体路と錐体外路との相違について説明できる。
8	血液	それぞれの血球細胞（赤血球、白血球、血小板）の有する機能について説明できる。
9	心臓・循環器系	心臓の有する機能、体循環、肺循環経路、刺激伝導系、心筋の活動電位、心臓のポンプ作用、心拍量について説明できる。
10	血液循環	呼吸の概念（外呼吸と内呼吸）、呼吸運動に関与する臓器・組織、呼吸器量、呼吸の化学的調節や神経性調節について説明できる。
11	呼吸	呼吸の概念（外呼吸と内呼吸）、呼吸運動に関与する臓器・組織、呼吸器量、呼吸の化学的調節や神経性調節について説明できる。
12	消化・吸収（口腔、咽頭、食道、胃）	口腔内消化における咀嚼筋、3大唾液腺、唾液の役割、嚥下運動、胃内消化における胃液の性状、胃液中に分泌されるホルモンや消化酵素について説明できる。
13	消化・吸収（小腸、大腸）	小腸での消化において分泌される膵液、胆汁、腸液に含まれるホルモンや消化酵素やそれらの生理活性、小腸における栄養素吸収、大腸内消化について説明できる。
14	内分泌	体内に分泌される調節性ホルモン及び機能性ホルモンの概念を理解し、主要なホルモンの生理作用を説明できる。
15	尿排泄	尿が生成・排泄されるまでの機構及び、尿排泄を調節するホルモンについて説明できる。

科目名	栄養学	科目ナンバリング	HOAA21010		
担当者氏名	細川 敬三、宇野 裕美子				
授業方法	講義	単位・必選	2・選択	開講年次・開講期	1年・Ⅱ期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力		○ 1-3 問題解決に向けて効果的な情報提供ができる（情報発信力） ○ 2-1 健康課題に対処するための方法を学び、現代的ツールに習熟する（専門的技術力） ◎ 2-2 複合的に絡み合う問題に気づく（知識の統合）			

《授業の概要》

豊かな人生にとって健康は重要な要素であり、その健康を維持・増進あるいは逆に悪化させるのは栄養である。したがって、栄養を知ることは、健康あるいは疾患時のケアを行う上で必要不可欠である。そこで本講義では、日常的に摂取する食品とその栄養素に関する基本を理解し、さらに体内での働きや健康の維持・増進、人のライフステージごとの栄養、あるいは疾病との関わりについても理解を深めることを目指す。

《授業の到達目標》

- (1) 食品とそこに含まれる栄養素の関係について説明できる。
- (2) 健康の維持・増進と栄養の関わりについて、基本的事項を説明できる。
- (3) 食事摂取基準や運動基準について意義を説明できる。
- (4) 種々の評価指標から対象者の栄養状態を推測できる。
- (5) 各ライフステージにおける生理的特徴と栄養管理について、要点を簡潔に説明できる。

《成績評価の方法》

定期試験 (100%)

*分からないことは、オフィスアワー等で質問を受け付ける。

《テキスト》

必要に応じて適時プリントを配付する。

《参考図書》

『食品学Ⅰ (第2版)』菅原龍幸・福澤美喜男編、建帛社
 『日本人の食事摂取基準(2015年版)』厚生労働省、第一出版
 『栄養学 第12版』小野 章史、杉山 みち子、鈴木 志保子、外山 健二、中村 丁次、医学書院

《授業時間外学習》

復習：その日の講義内容を見直し、ノートの不十分な箇所は教科書を参考に追記するなど、内容を再確認すること。忘れることを恐れず、一度は理解しておくことが重要です。

《備考》

健康を考える上で、食品と栄養に関心を持つことは大切です。日常の食生活の中で「？」と感じてください。

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など
1	はじめに（食品成分の概要）	食品と食品に含まれる成分の概要について理解する。
2	炭水化物（糖質）	炭水化物の種類について理解する。
3	脂質	脂質の種類について理解する。
4	たんぱく質	たんぱく質の種類について理解する。
5	ビタミンとミネラル	ビタミンとミネラルの種類について理解する。
6	機能性成分	機能性成分について理解する。
7	食品の表示	食品の表示について理解する。
8	食事と食品	食品と栄養素の関係、日常の活動と栄養の関係を理解する。
9	食物の消化と栄養素の吸収・代謝	食物の消化、栄養素の吸収、栄養素の代謝、食品のエネルギー、体内のエネルギーについて理解する。
10	食事摂取基準と健康づくり	食事摂取基準、運動指針を理解し、生活習慣病の予防、健康づくりに活かす方法を考える。
11	ライフステージと栄養①	妊娠・授乳期の栄養の重要性について理解する。
12	ライフステージと栄養②	新生児から思春期にかけての栄養の重要性について理解する。
13	ライフステージと栄養③	成人・高齢期の栄養上の問題点と生活習慣病との関連についても理解する。
14	栄養素による生体機能調節、疾病と栄養	栄養と免疫や運動パフォーマンス、疾病との関連について理解する。
15	栄養状態の評価	栄養状態の評価の目的と方法について理解する。

《専門教育科目 専門基礎科目群》

科目名	食品学	科目ナンバリング	HOXA21011
担当者氏名	土井 裕司		
授業方法	講義	単位・必選	2・選択
		開講年次・開講期	1年・I期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力	◎ 1-1 社会・文化・自然・健康を理解する（知識・理解） ○ 1-2 科学的根拠となるデータ・情報を収集する（情報収集力） ○ 2-1 健康課題に対処するための方法を学び、現代的ツールに習熟する（専門的技術力）		

《授業の概要》

食品は健康維持に必要な多種多様な成分の集合体である。人は食品から成長や健康の維持に必要な様々な栄養素を摂取している。ここでは食品成分について科学的に理解し、基本的な知識を修得することを目的としている。

《テキスト》

森田潤司・成田宏史編「食品学総論」第3版、化学同人

《参考図書》

小関正道・佐藤隆一郎編「わかりやすい食物と健康 1」三共出版、佐藤隆一郎・高畑京也・渡邊 悟編著「わかりやすい食物と健康 2」三共出版

《授業の到達目標》

食品成分の種類や特徴を科学的に理解し、得られた知識を他人に説明できるようになることを目標としている。教職課程履修学生には、学修内容を当該の教科内容および教材に関連づけて理解し、活用できるようになることを目標としている。

《授業時間外学習》

予習として、事前にテキストに目を通しておくこと。また、毎回の授業内容について必ず復習をすること。

《成績評価の方法》

1. 授業への積極的な取り組み(10%)
 2. 課題レポート(20%)
 3. 定期試験(70%)
- わからないことは、オフィスアワー等で質問を受け付ける。

《備考》

化学の知識が必要ですから、高校で学んだ化学を見直しておくこと。授業時には前列から座るように心がけること。

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など
1	食品とは	有機化学の基礎を概説したあと、食品・食物・栄養素といった言葉の定義を理解する。
2	水	水の構造や性質を解説し、食品中で水がどのように存在しているかを理解する。また、水が生体中や食品中でどのような機能を持っているかを理解する。
3	タンパク質	アミノ酸の構造・種類を説明したあと、タンパク質の構造や形状による分類を説明する。酵素がタンパク質であることを説明し、タンパク質の変性について理解する。
4	炭水化物	糖質の分類について言及する。次いで単糖や多糖の構造を説明する。糖質と炭水化物の違いを説明し、糖質や食物繊維の機能について理解する。
5	脂質	種々の脂肪酸の構造を説明する。次いで油脂の構造と性質について理解する。
6	無機質	無機質の食品中での働きを概説した後、この無機質の食品加工での役割や生体への機能を理解する。
7	ビタミン	このビタミンの生体への機能について理解する。
8	食品のおいしさに関わる成分	味に関わる成分、香りに関わる成分、色に関わる成分について理解する。
9	食品中の有害物質	植物由来の有害成分、動物中の有害成分、微生物由来の有害成分、アレルギー反応について理解する。
10	食品の機能	食品中に存在している生体調節機能を有した成分が、人の健康にどのように影響するかを理解する。
11	食品表示制度	日本での食品表示制度について理解する。
12	油脂の酸化	油脂が酸化していくメカニズムについて理解する。酸化した油脂の摂取が人の健康にどのように影響するかを理解する。
13	タンパク質・でんぷんの変化	食品中のタンパク質やデンプンが構造変化を引き起こすことを理解する。それらの変化が栄養的にどのような変化となったかを理解する。
14	褐変	食品の色の変化について理解する。その変化は食品の性質にどのような変化をもたらすかを理解する。
15	酵素による変化	食品成分が酵素によってどのように変化させられるかを理解する。酵素反応による生成物が人の食生活とどのように関わっていくかを理解する。

科目名	衛生学	科目ナンバリング	HOAA21013		
担当者氏名	内田 勇人				
授業方法	講義	単位・必選	2・選択	開講年次・開講期	1年・Ⅱ期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力	◎ 1-1 社会・文化・自然・健康を理解する（知識・理解） ○ 2-2 複合的に絡み合う問題に気づく（知識の統合） ○ 2-4 自らの行動を検証し、行動の修正や開発を行う（応用力）				

《授業の概要》

衛生には生命を衛るという意味がある。本講義では衛生に関わる今日の動向、諸課題を中心として、歴史的な側面にも目を向け、体系的に検討する。具体的には日本人の健康を取り巻く背景の変化、高齢社会、国際保健、健康政策、疫学、年齢階層別保健行政の実際について考えていく。受講生自身が日常生活習慣や国・地方公共団体の衛生行政への関心を高め、生涯にわたる健康の実現に向けた知識を養うことを目的とする。

《テキスト》

「衛生学および公衆衛生学」（担当教員作成）

《参考図書》

衛生・公衆衛生学関連書籍、現代健康学（九州大学出版会）等

《授業の到達目標》

今日の日本人の健康に関わる諸課題を理解し、いかにして個人と集団の疾病罹患を予防し、健康の維持・増進を図れるかについて説明できる。また日本人の疾病構造、食生活、労働態様、人口構成がどのように変化してきたのか、疾病の原因とその予防策、国外の動向、ライフステージ毎の保健行政の実際等について正しく理解し、実生活への応用の仕方について説明できる。

《授業時間外学習》

履修にあたっては、十分に予習・復習をして講義に出席すること。特に新聞、ニュース等で報じられる国内外の衛生、健康、予防医学、福祉、社会保障等に関するトピックスへ関心を払い、最新の医療・健康・福祉の行政施策等の動きについて、学習しておくこと。

《成績評価の方法》

講義ごとに講義内容に関するレポートを課し、その記載内容を評価する。レポートの成績全体に占める評価の割合は20%。学期末試験を実施。学期末試験の成績全体に占める評価の割合は70%。受講態度（成績全体に占める評価の割合は10%）を含め総合的に評価する。わからないことはWISAR等で質問を受け付ける。

《備考》

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など
1	オリエンテーション：衛生学への誘い	衛生学の定義、国民衛生の動向、日本人の健康を取り巻く背景の変化、健康政策、疫学、各年齢階層の保健行政の概略について説明することができる。
2	疾病構造の変化、食生活の変化	過去75年の間の疾病構造の変化（感染症から生活習慣病へ）、および食生活の変化（粗食から飽食へ）の各実態について説明することができる。
3	労働態様の変化、人口構成の変化	わが国の労働態様の変化（労働強度の時代から労働密度の時代へ）、人口構成の変化（多産多死から少産少死へ）の各実態について説明することができる。
4	個人レベルの健康を取り巻く背景	個人レベルの健康（主体要因、生物学的要因、物理・化学的要因、生活習慣的要因、社会・経済・心理的要因）の背景について説明することができる。
5	集団の健康問題を構成する背景	集団の健康（人口動態・人口構成、疾病構造、産業構造、生活水準、衛生状態、社会・文化的な慣習）の背景について説明することができる。
6	発展途上国、先進工業国、高齢社会における特	発展途上国、先進工業国、高齢社会における健康課題について理解し、それぞれの健康政策の相違点について説明する事ができる。
7	集団と個人の健康指標	集団の健康指標（平均寿命、乳児死亡率、年齢調整死亡率等）と個人の健康指標（身体・精神的健康度等）について理解し、それらの特徴について説明することができる。
8	オッズ比、リスク比の考え方	疫学の定義、疫学の歴史、疾病と要因の関連の強さを評価するオッズ比とリスク比の考え方、計算方法について説明することができる。
9	スクリーニングの考え方	スクリーニング（疾病の重症化や死亡を予防するために人々に対してある検査を行い有病者を拾い上げる医療行為）、感度と特異度等について説明することができる。
10	母子保健と小児保健	母子保健・小児保健の歴史、児童福祉法、母体保護法の内容、健やか親子21における具体的な課題について説明することができる。
11	学校保健	学校保健の歴史、学校保健安全法の内容、WHOが推奨しているHealth Promoting School、児童の疾病・異常の被患率、薬物汚染の実態について説明することができる。
12	公害・産業保健	産業保健・公害の歴史、最近の産業保健活動、メンタルストレスの問題、自殺予防の実際、職業病、公害について説明することができる。
13	地域保健	地域保健の歴史、保健所と保健センターの違い、地域住民の健康の保持増進施策について説明することができる。
14	高齢者保健	高齢者保健の歴史、高齢者医療法、地域包括支援センターの役割、特定健診、特定保健指導について説明することができる。
15	まとめと評価（到達度の確認）	乳幼児から高齢者に至る全ての年齢階層の健康課題や健康管理の方法、保健福祉施策について説明することができる。

《専門教育科目 I 群（運動・体育に関連する科目）》

科目名	体育原理	科目ナンバリング	H1BX21001
担当者氏名	徳田 泰伸		
授業方法	講義	単位・必選	2・選択
		開講年次・開講期	1年・I期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力	◎ 1-2 科学的根拠となるデータ・情報を収集する（情報収集力） ○ 2-1 健康課題に対処するための方法を学び、現代的ツールに習熟する（専門的技術力） ○ 2-2 複合的に絡み合う問題に気づく（知識の統合） ○ 2-4 自らの行動を検証し、行動の修正や開発を行う（応用力）		

《授業の概要》

体育原理という言葉は、PrincipleまたはFoundationに由来するものである。Principleには原理、原則。Foundationには、基礎、土台、根拠、出発点などの意味がある。体育原理は、体育はどのような原理・原則に基づいて考えられ、実践されなければならないか、正しい体育のあり方を学習する。

《テキスト》

資料配布および授業において紹介する。

《参考図書》

授業において適宜紹介する。

《授業の到達目標》

体育原理という講義を通じて体育（教育）の目標内容・方法の一貫性を原理として学んでいき、現代の健康スポーツに関する問題点を観察し説明ができる。

《授業時間外学習》

毎時間授業内容の復習と予習を必要とする。

《成績評価の方法》

小テスト、授業内課題の提出レポート、課題小テスト（20%）、各分野の学習後に課すレポート課題（60%）、平常点（20%）レポートにはコメントを付して返却する。

《備考》

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など
1	オリエンテーション	1 5 週の授業内容について説明する
2	身体の哲学的観察	身体の哲学的観察、身体の構造的把握、社会的身体
3	身体と体育	身体と体育、現代教育における身体的問題
4	体育の定義	体育の定義、体育という語の由来、体育とは身体活動の意義、体育の分野
5	体育の分野別課題	体育の分野別課題、幼児期の体育、少年期の体育、青年期の体育、壮年期の体育、老年期の体育
6	体育の必要性	体育の必要性（科学的原理の根拠）、社会学的側面、運動生活的側面（生物学的）、社会の中のスポーツについて学ぶ
7	体育の成立	体育の成立、体育の成立事情、体育の成立事例、体育の成立の発展、体育の成立条件、体育の指導者、体育の可能性と限界、我が国のスポーツ振興政策についても学ぶ
8	体育の目標	体育の目標、発達の目標、生活的目標、民主的人間：我が国のスポーツ振興政策に関連して学ぶ
9	学校体育の内容	学校体育の内容、学校における教育活動、学校体育の内容：スポーツ事故におけるスポーツ指導者の法的責任
10	体育の内容と学習活動	体育の内容と学習活動、体育内容の編成（カリキュラム）：スポーツ事故におけるスポーツ指導者の法的責任
11	体育の方法	体育の方法、教育方法の原理、生理学的原理、トレーニングの生理学的原理、具体的トレーニング
12	スポーツと人権	心理学的原理、社会的な原理、内容に即した方法原理、体育の実践形態、スポーツと人権
13	学習の指導段階	学習の指導段階（週2～12までのまとめと課題）
14	スポーツの大衆化	スポーツの大衆化、子供の運動遊び、スポーツと人権について、える
15	学習	学習のまとめ

《専門教育科目 I 群（運動・体育に関連する科目）》

科目名	運動の基礎		科目ナンバリング	H1BB11002
担当者氏名	木下 幸文			
授業方法	演習	単位・必選	2・必修	開講年次・開講期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力	◎ 1-1 社会・文化・自然・健康を理解する（知識・理解） ○ 1-2 科学的根拠となるデータ・情報を収集する（情報収集力） ○ 2-1 健康課題に対処するための方法を学び、現代的ツールに習熟する（専門的技術力） ○ 2-2 複合的に絡み合う問題に気づく（知識の統合） ○ 2-5 新しい情報の把握と状況の変化に鋭敏に反応し、学び続ける態度（生涯学習力）			

《授業の概要》

これから運動やスポーツに関する事項を多く学んでいくことになるが、「運動の基礎」はその始めとなる科目の1つである。そのことから、本演習では「身体を動かす意味」について考えていきたいと思う。具体的には、呼吸循環器や運動器が身体活動時にどのように作用（機能）しているのかを考えていく。すなわち本科目は、実際に身体を動かして体験しながら、じっくりと観察し、分析していく体験学習型の演習科目である。

《テキスト》

健康運動実践指導者養成用テキスト（公益財団法人健康体力づくり事業財団）

《参考図書》

演習内で適宜紹介する。

《授業の到達目標》

この演習では実習とそれに関する講義を交えながら進めていく中で、身体を動かすことの意義を理解し、考えることができるようになる。また、これから運動に携わる者として、身体活動の重要性を説明することができるようになる。

《授業時間外学習》

課題作成にあたっては資料などを参考にしながら、自分なりの意見がまとめられる様に意識的訓練を行うこと。

《成績評価の方法》

定期試験（50%）、課題提出（40%）、演習への取り組み（10%）とし、100点満点で60点以上を合格とする。提出したレポートにはコメントをつけて返却する。

《備考》

出席状況は毎回確認するとともに、課題の提出も頻繁に求めます。

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など
1	運動とは何か？	みんなで運動（身体活動）の必要性について考えてみよう（グループ学習）
2	運動の在り方について考える	身体を動かすことの意義について考えることができる
3	身体活動に伴う生理的な変化を調べる	身体を動かすによって変化する生理的な変化（脈拍数の測定）について考えることができる
4	行動を継続する能力について（1）	運動における全身持久力の役割について理解する（循環器の機能と運動）
5	行動を継続する能力について（2）	運動における全身持久力の役割について理解する（呼吸器の機能と運動）
6	骨格筋を効率よく使う方法について考える	バネのような機械的なエネルギーをもつ骨格筋について考えることができる
7	行動を起こす能力について（1）	運動における骨格筋の構造とその機能について理解する
8	速く走るための方法を考える	勢いよく走りきるための骨格筋と腱の役割について考えることができる
9	行動を起こす能力について（2）	運動における骨格筋の構造とその機能について理解する
10	身体を継続して動かす方法について調べる	身体を動かしている時に使われている栄養素について考えることができる
11	運動を行う際の栄養素の役割について	糖質、脂質やタンパク質といった栄養素と運動の関係について理解する
12	意欲的に運動を行うための方法を調べる	選手の実力を発揮させる方法について考えることができる（スポーツ指導者の役割について理解する）
13	運動指導における心理学の役割	運動を指導する上で必要となるスキル（コミュニケーションスキル）について考えることができる（指導者の心構え・視点について理解する）
14	競技力を向上させるための手段について考える	一貫した理念のもとに個人の特性や発達段階に応じて最適な指導を行うための方法について考えることができる（競技者育成プログラムの理念について）
15	身体を動かすことの意味について考える	健康を保つために必要な運動について説明することができる（グループ学習）

《専門教育科目 I 群（運動・体育に関連する科目）》

科目名	幼児運動実践演習		科目ナンバリング	H1BX11039	
担当者氏名	三宅 一郎				
授業方法	演習	単位・必選	2・必修	開講年次・開講期	1年・Ⅱ期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力	<ul style="list-style-type: none"> ○ 2-2 複合的に絡み合う問題に気づく（知識の統合） ◎ 2-3 構築された理論に基づき判断し、行動する（総合的判断力・実践力） ○ 2-5 新しい情報の把握と状況の変化に鋭敏に反応し、学び続ける態度（生涯学習力） ○ 3-2 効果的な意思疎通ができる（コミュニケーション力） 				

《授業の概要》

演習科目である為、理論と実践を交えながら進める。子どもの理解を深める意味で附属幼稚園の子どもの観察をしたり子ども達と接する機会を持つ。この授業を通して得た知識を、今後の運動・スポーツ指導に有効に活用できる事を望む。

《授業の到達目標》

幼児期の運動遊びを適切に援助できる能力を養うことを目標とする。その為、子どもの発育発達特徴を理解し幼児期における運動の正しい実践方法の知識を身につける。様々な運動遊びの考え方や実践方法を理解する事によって、幼児期に適した運動実践の在り方や援助方法を学ぶ。

《成績評価の方法》

評価の基準は以下の通りである。
 毎時間の授業のまとめ、感想、質問等をまとめたノート提出する（50%）。随時課題に対するレポート（30%）。学期末に理解度を確認するテスト（20%）。ノート、レポート、テストに対してコメントを付して返却する。

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など
1	授業オリエンテーション	授業の進め方、評価方法、授業ノートのまとめ方等を説明する。
2	発育発達期の特徴	子ども達を取り巻く問題点と運動遊びの必要性、援助における問題点の対策について
3	発育発達期の障害と予防	発育発達期に応じた運動遊びと留意点の理解
4	精神面の発達特徴	各年代別における精神面の発達特徴の理解とコミュニケーション方法
5	体力と運動機能の発達	体力と運動機能（関節運動を含む）発達過程と特徴
6	心拍数の運動生理学	心拍数からみた運動発達の特徴と運動遊び
7	呼吸循環機能の発達	各年代における呼吸循環機能の発達と運動遊び
8	移動系運動の発達	移動系運動の発達特徴と運動遊びの実際
9	操作系・非移動系（平衡系）運動の発達	操作系・非移動系＜平衡系＞運動の発達と運動遊びの実際
10	体力測定及び運動能力測定	体力測定及び運動能力測定の実施方法と測定結果の活用方法
11	運動指導プログラム	各年代における発育発達特徴を踏まえた運動遊びプログラムの実際と援助方法
12	移動系運動指導のプログラム	移動系運動の考え方をと運動遊びプログラム
13	操作系運動指導のプログラム	操作系運動の考え方と運動遊びプログラム
14	非移動系（平衡系）運動の指導プログラム	非移動系（平衡系）運動の考え方と運動遊びプログラム
15	まとめ	各年代における運動発達特徴の確認。場面に応じた運動実践方法。

《テキスト》

特になし。必要に応じて資料等を配布する。

《参考図書》

「運動発達の科学」～幼児の運動発達を考える～三宅一郎（大阪教育図書）
 「幼児の運動発達学」小林寛道（ミネルヴァ書房）
 「幼児の有酸素性能力の発達」吉澤茂弘著（杏林書院）
 “Motor Development and Movement Experiences for Young Children” DAVID L. GALLAHUE, John Wiley&Sons, ink

《授業時間外学習》

＜予習方法＞下記授業計画における次時の授業内容を参考文献等であらかじめ確認しておくことでより理解が深まる。
 ＜復習方法＞学んだ内容を配付資料等により再確認にノートにまとめる。疑問点等があればノートの感想欄に記載すること（後日必ず返答する）。これらの活動を通して効果的な理解が得られると考える。

《備考》

幼児期の運動遊びの指導者として必要な知識や援助方法を身につけて欲しい。

《専門教育科目 I 群（運動・体育に関連する科目）》

科目名	スポーツ史（体育史を含む）		科目ナンバリング	H1BX21011	
担当者氏名	徳田 泰伸				
授業方法	講義	単位・必選	2・選択	開講年次・開講期	1年・Ⅱ期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力		<ul style="list-style-type: none"> ○ 1-2 科学的根拠となるデータ・情報を収集する（情報収集力） ○ 2-1 健康課題に対処するための方法を学び、現代的ツールに習熟する（専門的技術力） ◎ 2-2 複合的に絡み合う問題に気づく（知識の統合） ○ 2-4 自らの行動を検証し、行動の修正や開発を行う（応用力） 			

《授業の概要》

古代から現代にいたるスポーツと教育の関係を、社会的・文化的・技術的・理論的視点から学習する。

《テキスト》

特に指定しない。講義中に参考資料の配付及び参考図書を紹介をする。

《参考図書》

必要に応じて参考資料を配付する。

《授業の到達目標》

運動・スポーツの歴史的研究の意義と方法を通じて、体育・スポーツの成り立ちや歩みを理解することができる。

《授業時間外学習》

スポーツ史に登場する遺跡や人物等の展示会があれば見学すること。また、テレビ等で取り上げられる番組があれば視聴するようにする。

《成績評価の方法》

小テスト、授業内課題の提出物、レポート課題小テスト（20%）、各分野の学習後に課すレポート課題（60%）、平常点（20%）
レポートにはコメントを付して返却する。

《備考》

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など
1	オリエンテーション	1 5 週の授業内容について説明する。
2	人類文明と身体的技能職の成立	資料・文献を通じて学習していく、文化としてのスポーツについて学ぶ
3	古代文明のスポーツ	資料・文献を通じて学習していく
4	中世におけるスポーツ	資料・文献を通じて学習していく
5	近世におけるスポーツ	資料・文献を通じて学習していく
6	近代体育理論の成立と展開	資料・文献を通じて学習していく
7	近代スポーツの展開	資料・文献を通じて学習していく
8	近代オリंपリズムの成立過程	資料・文献を通じて学習していく
9	学校体育の制度化とスポーツ	資料・文献を通じて学習していく
10	体育の科学的発展	資料・文献を通じて学習していく
11	生涯スポーツの歴史的展望	資料・文献を通じて学習していく
12	スポーツの概念	スポーツの概念と歴史について学ぶ
13	ディスカッション	各グループ別によるディスカッション（課題提供）
14	レポート	レポートによる小テスト
15	学習	学習のまとめ

《専門教育科目 I 群（運動・体育に関連する科目）》

科目名	体力測定と評価		科目ナンバリング	H1BB11016
担当者氏名	木下 幸文			
授業方法	演習	単位・必選	2・必修	開講年次・開講期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力	◎ 1-2 科学的根拠となるデータ・情報を収集する（情報収集力） ○ 1-3 問題解決に向けて効果的な情報提供ができる（情報発信力） ○ 2-1 健康課題に対処するための方法を学び、現代的ツールに習熟する（専門的技術力） ○ 2-3 構築された理論に基づき判断し、行動する（総合的判断力・実践力）			

《授業の概要》

近年、体力と健康の関係が重要視されようになった。体力測定は様々な項目を計測することによって、自分自身の現時点における体力の状態を把握することが目的となっている。また、児童・生徒のみならず中高年者の体力の実態を正確に把握することは、発育発達や年齢に応じた運動プログラムを提供していく上で重要となる。本演習では自身の体力測定を行うだけでなく、体力測定の実際とその評価方法について学んでいく。

《テキスト》

健康運動実践指導者養成用テキスト（公益財団法人健康体力づくり事業財団）、「新体力テスト実施要領（6～79歳）」（文部科学省）

《参考図書》

演習内で適宜紹介する。

《授業の到達目標》

児童・生徒から高齢者まで、さらにはトップアスリートの体力を正確に測定することが出来る。また、体力を測定することの意義を考えながら、得られた測定結果をもとにして適切な体力評価が行えるようになる。

《授業時間外学習》

様々な測定指標について、正確に測定するための方法について測定開始時まで事前学習をしておくこと。

《成績評価の方法》

定期試験（50%）、課題提出（40%）、演習への取り組み（10%）とし、100点満点で60点以上を合格とする。講義時に提出した課題は、コメントをつけて返却する。

《備考》

出席状況は毎回確認するとともに、課題の提出も頻繁に求めます。本演習では自分自身の体力測定も行います。測定の際は更衣を済ませておくこと。

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など
1	体力測定の意義について	体力が健康に及ぼす影響について理解する
2	体力とは	行動体力と防衛体力について理解する
3	体力測定の指標について	体力の測定に用いられている様々な指標について理解する（新体力テスト、ADLテスト、健康づくりのための身体活動基準ほか）
4	身体組成の測定法と実際	体密度と体脂肪量の測定法とその評価方法について理解する
5	体力の測定方法と実際について（1）	骨格筋の力（筋力）を評価する（筋力と握力、背筋力について） ※中年期も含む
6	体力の測定方法と実際について（2）	骨格筋の有する力（筋持久力・筋パワー）について評価する（上体起こし、垂直跳び、立ち幅跳びなど） ※中年期も含む
7	体力の測定方法と実際について（3）	骨格筋の有する力（筋パワー）について評価する（50m走、ソフトボール投げなど） ※中年期も含む
8	体力の評価方法について	各自の測定データを処理（平均値、標準偏差など）し、体力の判定基準などと照らし合わせて分析することが出来る
9	体力の測定方法と実際について（4）	心肺の機能（全身持久力）を評価する（20mシャトルラン、6分間歩行など） ※中年期も含む
10	体力の測定方法と実際について（5）	バランス能力や調整力（柔軟性、敏捷性、平衡性）を評価する（長座体前屈、反復横跳びなど） ※中年期も含む
11	年代別（高齢者）の体力評価について（1）	高齢者のフィールドテスト（10m障害物歩行など）により体力を評価することが出来る
12	年代別（高齢者）の体力評価について（2）	高齢者のフィールドテスト（開眼片足立ち、ファンクショナルリーチなど）により体力を評価することが出来る
13	介護予防に関する体力測定法について	介護予防における体力測定の意義について理解する
14	介護予防に関する体力測定の実際	体力の測定法を用いて、介護予防における体力について評価することが出来る
15	体力評価について（まとめ）	演習全体のまとめ

《専門教育科目 I 群（運動・体育に関連する科目）》

科目名	スポーツ実践演習 I	科目ナンバリング	H1CX21041
担当者氏名	樽本 つぐみ		
授業方法	演習	単位・必選	2・選択
		開講年次・開講期	1年・I期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力	○ 1-1 社会・文化・自然・健康を理解する（知識・理解） ◎ 2-1 健康課題に対処するための方法を学び、現代的ツールに習熟する（専門的技術力） ○ 2-2 複合的に絡み合う問題に気づく（知識の統合） ○ 2-3 構築された理論に基づき判断し、行動する（総合的判断力・実践力）		

《授業の概要》

授業計画に示す内容のスポーツ種目や学校体育種目を実施する。個人・グループ毎に実施種目のルール確認と正しい実践方法の理解。実施種目は、個人・グループ毎に授業計画に示す全種目を体験する。この授業を通して体得したものが、Ⅱ期開講のスポーツ実践Ⅱに有効に活用されることを期待する。さらに、水泳（水中運動）とエアロビクスダンスに関しては定期時間外の集中講義にて実施する。

《授業の到達目標》

主として体育指導者としての能力を養うことを目標とする。その為に、スポーツ・体育における様々な種目の正しい実践方法を身につける。具体的には、様々なスポーツのルールの理解及び審判方法を体得すると共に、学校体育における実施種目の実戦を通して段階的な指導方法を学ぶ。以上に示したスポーツ・体育指導者として必要と思われる内容を実施する。

《成績評価の方法》

毎時間の授業のまとめ、感想、質問等をまとめたノート提出する（50%）。随時課題に対するレポート（30%）。学期末に理解度を確認するテスト（20%）。レポートにコメントを付して返却する。

《テキスト》

特になし。必要に応じて資料等を配布する。

《参考図書》

『運動適応の科学～トレーニングの科学的アプローチ～』竹宮隆・石河利寛著（杏林書院）『体力を考える～その定義・測定と応用～』宮下充正著（杏林書院）『選手とコーチのトレーニングマニュアル』ブルーノ・ボーレット著『中学校学習指導要領解説（保健体育編）』

《授業時間外学習》

<予習方法> 下記授業計画における次時の授業内容を参考文献等であらかじめ確認しておくことでより理解が深まる。<復習方法> 学んだ内容を配付資料等により再確認にノートにまとめる。疑問点等があればノートの感想欄に記載すること（後日必ず返答する）。これらの活動を通して効果的な理解が得られると考える。

《備考》

健康システム学科の学生として、スポーツ・学校体育の理論と実践を積極的に体得しよう。

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など
1	授業オリエンテーション	授業の概要を説明する
2	体づくり運動の考え方と実践（1）	青少年期における動きの発達とスキルの獲得のための方法青少年期の静的レジスタンストレーニング
3	体づくり運動の考え方と実践（2）	青少年期における専門スポーツのスキル獲得のための方法青少年期の動的レジスタンストレーニング
4	器械運動の考え方と実践（1）	マット運動における特性の理解と実践（その1）
5	器械運動の考え方と実践（2）	マット運動における特性の理解と実践（その2）
6	球技の考え方と実践（1）	バスケットボールにおける特性・ルールの理解と実践（その1）
7	球技の考え方と実践（2）	バスケットボールにおける特性・ルールの理解と実践（その2）
8	球技の考え方と実践（3）	バレーボールにおける特性・ルールの理解と実践（その1）
9	球技の考え方と実践（4）	バレーボールにおける特性・ルールの理解と実践（その2）
10	水泳の考え方と実践	水泳及び水中運動における種目特性の理解と実践（青少年期における専門スポーツのスキル獲得のための方法）
11	陸上競技の考え方と実践（1）	短距離における種目特性の理解と実践
12	陸上競技の考え方と実践（2）	リレーにおける種目特性の理解と実践
13	格技の考え方と実践（1）	剣道における特性の理解と実践（その1）
14	格技の考え方と実践（2）	剣道における特性の理解と実践（その2）
15	まとめ	授業のまとめをする

科目名	スポーツ実践演習Ⅱ		科目ナンバリング	H1CX21042
担当者氏名	樽本 つぐみ			
授業方法	演習	単位・必選	2・選択	開講年次・開講期 1年・Ⅱ期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力	○ 1-1 社会・文化・自然・健康を理解する（知識・理解） ◎ 1-2 科学的根拠となるデータ・情報を収集する（情報収集力） ○ 2-1 健康課題に対処するための方法を学び、現代的ツールに習熟する（専門的技術力） ○ 2-2 複合的に絡み合う問題に気づく（知識の統合） ○ 3-2 効果的な意思疎通ができる（コミュニケーション力）			

《授業の概要》

授業計画に示す内容のスポーツ種目や学校体育種目を実施する。個人・グループ毎に実施種目のルール確認と正しい実践方法の理解。実施種目は、個人・グループ毎に授業計画に示す全種目を体験する。各自がこの授業を通して体得したものが、2年次以降のスポーツ関連科目で有効に活用されることを期待する。さらに、水泳（水中運動）とエアロビクスダンスに関しては定期時間外の集中講義にて実施する。

《授業の到達目標》

主として体育指導者としての能力を養うことを目標とする。その為に、スポーツ・体育における様々な種目の正しい実践方法を身につける。具体的には、様々なスポーツのルールの理解及び審判方法を体得すると共に、学校体育における実施種目の実戦を通して段階的な指導方法を学ぶ。以上に示したスポーツ・体育指導者として必要と思われる内容を実施する。

《成績評価の方法》

評価の基準は以下の通りである。毎時間の授業のまとめ、感想、質問等をまとめたノート提出する（50%）。随時課題に対するレポート（30%）。学期末に理解度を確認するテスト（20%）。レポートにコメントを付して返却する。

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など
1	授業オリエンテーション	授業の概要を説明する
2	器械運動（1）	跳び箱運動における特性の理解と実践（その1）
3	器械運動（2）	跳び箱運動における特性の理解と実践（その2）、指導計画書の作成および指導
4	器械運動（3）	鉄棒運動における特性の理解と実践（その1）
5	器械運動（4）	鉄棒運動における特性の理解と実践（その2）、指導計画書の作成および指導
6	球技（1）	テニス・バドミントンにおける特性・ルールの理解と実践（その1）スポーツスキルの獲得（コーディネーショントレーニングを含む）
7	球技（2）	テニス・バドミントンにおける特性・ルールの理解と実践（その2）スポーツスキルの獲得（コーディネーショントレーニングを含む）
8	ダンス	ダンスにおける種目特性の理解と実践、指導計画書の作成および指導
9	陸上競技（1）	走り幅跳び・走り高跳びにおける種目特性の理解と実践
10	陸上競技（2）	正しいウォーキング・ジョギング長距離走における種目特性の理解と実践 指導計画書の作成および指導
11	球技（1）	サッカーにおける特性・ルールの理解と実践（その1）スポーツスキルの獲得
12	球技（2）	サッカーにおける特性・ルールの理解と実践（その2）スポーツスキルの獲得
13	格技（1）	柔道における特性の理解と実践（その1）スポーツスキルの獲得
14	格技（2）	柔道における特性の理解と実践（その2）スポーツスキルの獲得
15	まとめ	まとめを行う

《テキスト》

特になし。必要に応じて資料等を配布する。

《参考図書》

『運動適応の科学～トレーニングの科学的アプローチ～』竹宮隆・石河利寛著（杏林書院）『体力を考える～その定義・測定と応用～』宮下充正著（杏林書院）『選手とコーチのトレーニングマニュアル』ブルーノ・ボーレット著『中学校学習指導要領解説（保健体育編）』

《授業時間外学習》

<予習方法> 下記授業計画における次時の授業内容を参考文献等であらかじめ確認しておくことでより理解が深まる。
 <復習方法> 学んだ内容を配付資料等により再確認にノートにまとめる。疑問点等があればノートの感想欄に記載すること（後日必ず返答する）。これらの活動を通して効果的な理解が得られると考える。

《備考》

健康システム学科の学生として、スポーツ・学校体育の理論と実践を積極的に体得しよう。

《専門教育科目 I 群（運動・体育に関連する科目）》

科目名	陸上競技 I	科目ナンバリング	H1CX21046
担当者氏名	樽本 つぐみ		
授業方法	実技	単位・必選	1・選択
		開講年次・開講期	1年・I期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力	○ 1-1 社会・文化・自然・健康を理解する（知識・理解） ◎ 1-2 科学的根拠となるデータ・情報を収集する（情報収集力） ○ 2-1 健康課題に対処するための方法を学び、現代的ツールに習熟する（専門的技術力） ○ 2-3 構築された理論に基づき判断し、行動する（総合的判断力・実践力） ○ 3-1 人間を理解し、適切な指導ができる（専門的知識）		

《授業の概要》

陸上競技は走・跳・投の運動で、より速くより遠くより高くといった自己の記録を高めたり、定められた条件やルールの中で他人と競争するところに楽しさや喜びを味わえる競技である。この授業では、陸上競技に必要な基礎体力の向上と技術を高めるための指導法について学び実践する。

《テキスト》

特に指定はしません。必要に応じて資料を配付する。

《参考図書》

《授業の到達目標》

この授業では、走・跳・投の特性を理解し、技術の修得および設定記録に到達できることを目標とする。

《授業時間外学習》

到達目標に達するために個人でトレーニングを行うこと。

《成績評価の方法》

授業の内容等をまとめたノートおよびレポートの提出（50%）
 基本的な体力、技術、設定タイムの到達度（50%）
 ノートおよびレポートにコメントを付して返却する。

《備考》

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など
1	オリエンテーション	授業の流れを説明する。
2	短距離走	短距離の特性理解（スタート技術、加速走、中間走、フィニッシュ）
3	短距離走	練習方法と指導法、タイムトライアル
4	リレー	リレーの特性理解（バトンパス等）
5	リレー	練習方法と指導法、タイムトライアル
6	ハードル走	ハードルの特性理解（ハードリング、インターバル等）
7	ハードル走	ハードルの実践練習
8	ハードル走	練習方法と指導法
9	ハードル走	練習方法と指導法、タイムトライアル
10	走り幅跳び	幅跳びの特性理解（助走、踏切、空中動作、着地）
11	走り幅跳び	練習方法と指導法
12	走り幅跳び	練習方法と指導法、タイムトライアル
13	走り高跳び	高跳びの特性理解
14	走り高跳び	練習方法と指導法
15	走り高跳び	練習方法と指導法、タイムトライアル

《専門教育科目 I 群（運動・体育に関連する科目）》

科目名	球技 I	科目ナンバリング	H1CX21047
担当者氏名	木下 幸文		
授業方法	実技	単位・必選	1・選択
		開講年次・開講期	1年・I期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力	○ 1-1 社会・文化・自然・健康を理解する（知識・理解） ◎ 2-1 健康課題に対処するための方法を学び、現代的ツールに習熟する（専門的技術力） ○ 2-3 構築された理論に基づき判断し、行動する（総合的判断力・実践力）		

《授業の概要》

中学校学習指導要領解説「保健体育編」を理解すること。特に球技の教育内容を把握し、保健体育授業の指導者として種目特有の指導と的確な行動力と判断力の修得を目指す。

《テキスト》

「中学校学習指導要領解説 保健体育編」文部科学省

《参考図書》

必要に応じて紹介する

《授業の到達目標》

球技における各種目の特性やルールを理解し、必要な能力を体得する。それぞれの場面に応じた課題に取り組み、段階的に練習方法や指導方法を修得する。

《授業時間外学習》

＜予習方法＞下記授業計画における次時の授業内容を参考文献等であらかじめ確認しておくことでより理解が深まる。
 ＜復習方法＞学んだ内容を配付資料等により再確認にノートにまとめる。疑問点等があればノートの感想欄に記載すること（後日必ず返答する）。これらの活動を通して効果的な理解が得られると考える。

《成績評価の方法》

評価の基準は以下の通りである。
 毎時間の授業のまとめ、感想、質問等をまとめたノートを提出する（50%）。随時課題に対するレポート（20%）。各種目技能の習熟度を確認する実技テスト（30%）。
 提出されたノートやレポートにはコメントをつけて返却する。

《備考》

健康システム学科の学生として、スポーツ・学校体育の理論と実践を積極的に体得しよう。スポーツ活動に相応しい服装で参加すること。

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など
1	オリエンテーション	授業の実施方法等について説明
2	バスケットボール（1）	バスケットボールの特性とルールの理解
3	バスケットボール（2）	ボールの操作と攻撃・守備の実践（1）シュート練習、パス、ドリブルの練習
4	バスケットボール（3）	ボールの操作と攻撃・守備の実践（2）シュート練習、パス、ドリブルの練習
5	バスケットボール（4）	ボールの操作と攻撃・守備の実践（3）シュート練習、パス、ドリブルの練習
6	バスケットボール（5）	ゲーム形式の総合練習
7	バレーボール（1）	バレーボールの特性とルールの理解、個人技能（パス、サービス）の練習
8	バレーボール（2）	個人技能の修得、連携プレイへの発展（1）
9	バレーボール（3）	個人技能の修得、連携プレイへの発展（2）
10	バレーボール（4）	個人技能の修得、連携プレイへの発展（3）
11	バレーボール（5）	ゲーム形式の総合練習
12	バドミントン（1）	バドミントンの特性とルールの理解、基本的な技能練習
13	バドミントン（2）	基本的技能の修得とゲームへの発展（1）
14	バドミントン（3）	基本的技能の修得とゲームへの発展（2）
15	バドミントン（4）	ゲーム形式の総合練習

《専門教育科目 I 群（運動・体育に関連する科目）》

科目名	陸上競技Ⅱ		科目ナンバリング	H1CX21048	
担当者氏名	樽本 つぐみ				
授業方法	実技	単位・必選	1・選択	開講年次・開講期	1年・Ⅱ期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力		<ul style="list-style-type: none"> ○ 1-2 科学的根拠となるデータ・情報を収集する（情報収集力） ◎ 1-3 問題解決に向けて効果的な情報提供ができる（情報発信力） ○ 2-2 複合的に絡み合う問題に気づく（知識の統合） ○ 2-4 自らの行動を検証し、行動の修正や開発を行う（応用力） ○ 3-1 人間を理解し、適切な指導ができる（専門的知識） 			

《授業の概要》

陸上競技は走・跳・投の運動で、より速くより遠くより高くといった自己の記録を高めたり、定められた条件やルールの中で他人と競争するところに楽しさや喜びを味わえる競技である。この授業では、陸上競技に必要な基礎体力の向上と技術を高めるための指導法について学び実践する。

《テキスト》

特に指定はしません。必要に応じて資料を配付する。

《参考図書》

《授業の到達目標》

この授業では、走・跳・投の特性を理解し、技術の修得および設定記録に到達できることを目標とする。

《授業時間外学習》

到達目標に達するために個人でトレーニングを行うこと。

《成績評価の方法》

授業の内容等をまとめたノートおよびレポートの提出（50%）

基本的な体力、技術、設定タイムの到達度（50%）
ノートおよびレポートにコメントを付して返却する。

《備考》

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など
1	オリエンテーション	授業の流れを説明する。
2	短距離走とハードル	200mや400m、400mハードルの特性理解
3	短距離走とハードル	練習方法と指導法、タイムトライアル
4	リレーとハードル	マイルリレーやスウェーデンリレー等の特性理解
5	リレーとハードル	練習方法と指導法、タイムトライアル
6	中距離走	800mや1500mの特性理解
7	中距離走	練習方法と指導法
8	中距離走	タイムトライアル
9	長距離走	5000mや10000m、マラソンの特性理解
10	長距離走	練習方法と指導法
11	長距離走	タイムトライアル
12	砲丸投げ	砲丸投げの特性理解
13	砲丸投げ	練習方法と指導法、測定
14	ジャベリックスロー	ジャベリックスローの特性理解
15	ジャベリックスロー	練習方法と指導法、測定

《専門教育科目 I 群（運動・体育に関連する科目）》

科目名	球技Ⅱ	科目ナンバリング	H1CX21049
担当者氏名	木下 幸文		
授業方法	実技	単位・必選	1・選択
		開講年次・開講期	1年・Ⅱ期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力	○ 1-1 社会・文化・自然・健康を理解する（知識・理解） ◎ 2-1 健康課題に対処するための方法を学び、現代的ツールに習熟する（専門的技術力） ○ 2-4 自らの行動を検証し、行動の修正や開発を行う（応用力）		

《授業の概要》

球技における各種目の特性やルールを理解し、必要な能力を体得する。それぞれの場面に応じた課題に取り組み、段階的に練習方法や指導方法を修得する。

《テキスト》

「中学校学習指導要領解説 保健体育編」文部科学省

《参考図書》

必要に応じて紹介する

《授業の到達目標》

球技における各種目の特性やルールを理解し、必要な能力を体得する。それぞれの場面に応じた課題に取り組み、段階的に練習方法や指導方法を修得する。

《授業時間外学習》

＜予習方法＞下記授業計画における次時の授業内容を参考文献等であらかじめ確認しておくことでより理解が深まる。＜復習方法＞学んだ内容を配付資料等により再確認にノートにまとめる。疑問点等があればノートの感想欄に記載すること（後日必ず返答する）。これらの活動を通して効果的な理解が得られると考える。

《成績評価の方法》

評価の基準は以下の通りである。
 毎時間の授業のまとめ、感想、質問等をまとめたノートを提出する（50％）。随時課題に対するレポート（20％）。各種目技能の習熟度を確認する実技テスト（30％）。
 提出されたノートやレポートにはコメントをつけて返却する。

《備考》

健康システム学科の学生として、スポーツ・学校体育の理論と実践を積極的に体得しよう。スポーツ活動に相応しい服装で参加すること（スパイクの使用は禁止とします）。

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など
1	オリエンテーション	授業の実施方法等について説明
2	ソフトボール（1）	ソフトボールの特性とルールの理解
3	ソフトボール（2）	個人技能の修得、連携プレイへの発展
4	ソフトボール（3）	ゲーム形式の総合練習（課題の話し合い）
5	ソフトボール（4）	まとめのゲーム
6	サッカー（1）	サッカーの特性とルールの理解、基本的な技能練習
7	サッカー（2）	基本的技能の修得と連携プレイへの発展（ボール遊び）
8	サッカー（3）	基本的技能の修得と連携プレイへの発展（ボールコントロール1）
9	サッカー（4）	基本的技能の修得と連携プレイへの発展（ボールコントロール2）
10	サッカー（5）	基本的技能の修得と連携プレイへの発展（ボールコントロール3）
11	サッカー（6）	基本的技能の修得と連携プレイへの発展（ボールコントロール4）
12	サッカー（7）	基本的技能の修得と連携プレイへの発展（スペースの活用1）
13	サッカー（8）	基本的技能の修得と連携プレイへの発展（スペースの活用2）
14	サッカー（9）	ゲーム形式の総合練習（課題の話し合い）
15	サッカー（10）	まとめのゲーム

《専門教育科目 I 群（運動・体育に関連する科目）》

科目名	武道 I	科目ナンバリング	H1CX21050
担当者氏名	徳田 泰伸		
授業方法	実技	単位・必選	1・選択
		開講年次・開講期	1年・Ⅱ期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力	<ul style="list-style-type: none"> ○ 1-1 社会・文化・自然・健康を理解する（知識・理解） ○ 1-2 科学的根拠となるデータ・情報を収集する（情報収集力） ○ 2-4 自らの行動を検証し、行動の修正や開発を行う（応用力） ◎ 2-5 新しい情報の把握と状況の変化に鋭敏に反応し、学び続ける態度（生涯学習力） 		

《授業の概要》

学習指導要領解説 保健体育編 を理解すること。特に教育内容を把握し、保健体育授業の指導者として種目特有の指導的・確かな行動力と判断力の修得を目指す。

《テキスト》

文部科学省「中学校学習指導要領解説 保健体育編」

《参考図書》

適宜、参考となる文献や資料を紹介する

《授業の到達目標》

武道を通して技能や伝統的な行動の仕方を理解し、課題に応じた取り組み方を段階的に修得することができるようにする。

《授業時間外学習》

毎授業で実践したことを復習し、反復練習をして身につける。ノートにまとめておくことも今後の指導にとって重要である。

《成績評価の方法》

毎時間の授業のまとめ（ノート提出）20%

実技テスト（達成度）80%

実技テストは評価にコメントを付し個人に伝える。

レポートはコメントを付して返却する。

《備考》

健康システム学科の学生として、身体運動文化の追求とスポーツを通して自己を高めていこう。

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など
1	オリエンテーション 柔道 基本動作①	すり足、歩み足、継ぎ足 ～体の移動
2	基本動作②	受け身、前回り受け身、横受け身、後ろ受け身
3	基本動作③	反復練習
4	基本となる技①	投げ技（膝車→支え釣り込み足、大外刈り→小内刈り、体落とし→大腰）
5	基本となる技②	固め技（けさ固め、横四方固め、上四方固め）
6	基本となる技③	反復練習、投げ技、固め技
7	まとめ	練習試合
8	オリエンテーション 剣道 基本動作①	竹刀の持ち方、構え方、体さばき
9	基本動作②	①の反復練習、基本打突の仕方、受け方
10	基本となる技①	①しかけ技 二段の技（面一胴、小手一面、二段の技）引き技（引き面、引き胴） ②応じ技（抜き技）
11	基本となる技②	両抜き胴、小手抜き面
12	基本となる技③	かかり練習、約束練習
13	基本となる技④	しかけ技、応じ技、自由練習、試合
14	自由練習・試合	技を確かめる 総合的な技の出し合い
15	まとめ	まとめ

《専門教育科目 II 群（養護・保健に関連する科目）》

科目名	養護概説 I	科目ナンバリング	H2XC21003
担当者氏名	加藤 和代		
授業方法	講義	単位・必選	2・選択
		開講年次・開講期	1年・I期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力	<ul style="list-style-type: none"> ○ 1-2 科学的根拠となるデータ・情報を収集する（情報収集力） ○ 2-1 健康課題に対処するための方法を学び、現代的ツールに習熟する（専門的技術力） ◎ 2-4 自らの行動を検証し、行動の修正や開発を行う（応用力） ○ 3-1 人間を理解し、適切な指導ができる（専門的知識） 		

《授業の概要》

これまで児童生徒側から捉えてきた養護教諭像、保健室のイメージを、学校教育の視点から、教師性、専門性を再構築することを目指す。また学校の教育課題や児童生徒の健康課題に関心を持ち、対策を検討することで養護教諭としての児童生徒観を育てる。

《テキスト》

『新養護概説』 采女智津江編集 少年新聞社

《参考図書》

適宜紹介する。

《授業の到達目標》

- ① 「養護教諭の職務」「保健室の機能」の概観を説明することができる。
- ② 児童生徒の健康課題に関心を持ち、現状や対策を擁護活動の視点から考えることができる。
- ③ 養護教諭が学校教育として担う「養護」について考えをまとめることができる。

《授業時間外学習》

テキストを通読すること。
授業の始めに小テストを実施するので前回のポイントを整理しておくこと。

《成績評価の方法》

レポート発表（20％）小テスト（20％）定期テスト（60％）
レポートは評価コメントを加えて返却する。

《備考》

アクティブラーニングゾーンを利用することもある。

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など
1	ガイダンス	講義の進め方
2	養護教諭の職制の歴史的背景	学校看護婦として始まった歴史を踏まえ、時代とともに教育職員として養護教諭の果たす役割が拡大され、職制が改善されてきたことを理解する。
3	学校教育と養護教諭	教育基本法、学校教育法、学校保健安全法などの教育関係法令、中央教育審議会・保健体育審議会等の答申などから学校教育で求められる養護教諭の資質、能力を考える。
4	養護教諭の専門性とその職務内容（1）	教育職員としての職務内容、養護教諭の専門領域における職務内容から、養護教諭の担う養護とは何かを考える。（1）
5	養護教諭の専門性とその職務内容（2）	教育職員としての職務内容、養護教諭の専門領域における職務内容から、養護教諭の担う養護とは何かを考える。（2）
6	保健教育、保健管理に関わる学校組織	学校保健関係職員、学校医、学校歯科医、学校薬剤師の役割分担とその職務内容から学校保健計画、学校保健組織活動を概観する。
7	子どもの発育発達の現状と健康課題（1）	児童生徒の発育発達の現状、健康課題の推移を理解する。
8	子どもの発育発達の現状と健康課題（2）	現代的健康課題に対して養護教諭が行なう保健指導や支援を考える。
9	保健室の機能と保健室経営（1）	保健室の機能と教育上の役割を踏まえ、保健室経営について理解する。
10	保健室の機能と保健室経営（2）	学校種・学校規模による保健室経営の違いを考える。
11	心のケアと養護教諭	災害時の心のケアを含めて、養護活動として児童生徒への対応、保護者への対応、地域の関係機関との連携を考える。
12	特別支援教育と養護教諭	特別支援教育のシステム、障害の理解とその支援、保護者や関係機関との連携から、保健室でのユニバーサルデザイン、合理的配慮を考える。
13	小学校の保健室経営の実際	小学校保健室を訪問し、養護教諭の実践から小学校の保健室経営、養護活動を考える。
14	中学校の保健室経営の実際	中学校保健室を訪問し、養護教諭の実践から中学校の保健室経営、養護活動を考える。
15	まとめ	養護教諭の専門性を活かした教育活動とは

《専門教育科目 II 群（養護・保健に関連する科目）》

科目名	養護概説 II		科目ナンバリング	H2XC21004
担当者氏名	米野 吉則			
授業方法	講義	単位・必選	2・選択	開講年次・開講期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力	○ 1-3 問題解決に向けて効果的な情報提供ができる（情報発信力） ○ 2-1 健康課題に対処するための方法を学び、現代的ツールに習熟する（専門的技術力） ○ 2-2 複合的に絡み合う問題に気づく（知識の統合） ○ 2-4 自らの行動を検証し、行動の修正や開発を行う（応用力） ◎ 3-1 人間を理解し、適切な指導ができる（専門的知識）			

《授業の概要》

養護概説 I で学んだ内容をさらに発展させ、養護教諭の役割と活動に対する認識を深める。また養護教諭の専門性を形成する人間観と科学性を再認識し、実践の学問としての位置づけを明確にする。

《テキスト》

「新養護概説」 采女智津江 少年写真新聞社

《参考図書》

「新版・養護教諭執務のてびき」 植田誠治監修 石川県養護教諭研究会編 東山書房

《授業の到達目標》

- ・養護教諭の職務の目的や内容、法的位置づけを理解する。
- ・養護活動の理論や方法を理解し、求められる専門性や資質・能力について述べるができる。
- ・学校教育における養護教諭の存在理由を述べるができる。

《授業時間外学習》

2回目以降はシラバスにより授業時のテーマや内容を把握し、事前に必ず予習しておくこと。また、授業内容についての質問を準備しておくことと良い。復習についても最低限、毎授業内容を見返しておくことを求める。

《成績評価の方法》

- ・定期試験 40%、グループ課題 20%、個別課題 30%
- ※グループ及び個別課題はコメントを記入し返却します。

《備考》

免許選択科目である。養護教諭免許の取得を目指す学生は意欲的・積極的に受講すること。

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など
1	オリエンテーション	授業概要の説明および養護概説 I における学びの確認を行う。
2	保健管理	保健管理領域における救急処置、健康診断、健康観察、疾病予防、学校環境衛生のそれぞれの概要と目的について理解する。
3	救急処置	学校における救急処置の特性、必要となる能力と技術について理解する。
4	健康診断	健康診断の種類と項目、それぞれの留意点や実施の流れについて理解する。
5	健康観察	健康観察の重要性と評価方法について理解する。
6	疾病予防	子ども個別の健康課題への対応や学校感染症の予防と管理について理解する。
7	学校環境衛生	学校環境衛生の目的、法的根拠、基準について理解する。
8	保健教育（1）	保健学習、保健指導の目的、内容、法的な位置づけについて理解する。
9	保健教育（2）	全校朝礼を想定した保健指導の指導計画や内容を発表する。
10	健康相談	学校における健康相談の概要とその中での養護教諭の役割について理解する。
11	保健組織活動	学校における保健組織や組織活動の必要性について理解する。
12	学校における危機管理と養護教諭	学校という場における日常の安全管理と災害時の危機管理について基本的な考えと養護教諭の役割について理解する。
13	養護教諭のジェンダー	男性養護教諭の課題からみる養護教諭の課題について討議する。
14	養護教諭に必要な資質能力	養護教諭に求められている資質と能力、果たすべき役割について討議する。
15	課題の発表、及びまとめ	これまでの学習で得られた知見を再確認し、養護教諭に関わるテーマで個人発表を行う。

《専門教育科目 II 群（養護・保健に関連する科目）》

科目名	学校保健 I（小児保健・学校安全を含む）		科目ナンバリング	H2BB11007
担当者氏名	未定			
授業方法	講義	単位・必選	2・選択	開講年次・開講期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力	◎ 1-1 社会・文化・自然・健康を理解する（知識・理解） ○ 2-5 新しい情報の把握と状況の変化に鋭敏に反応し、学び続ける態度（生涯学習力） ○ 3-1 人間を理解し、適切な指導ができる（専門的知識）			

《授業の概要》

「学校保健」は、こども達の健康の保持増進や安全を確保するとともに、将来にわたっての健全な心身の健康を保持増進させるための能力を形成することを目的とする。近年、児童生徒を取り巻く様々な健康問題が多発し、健康な心身を脅かす等、大きな社会問題ともなっている。学校においては、その指導の中心となる保健体育科教諭・養護教諭の果たす役割は重要であり、学校保健の基礎知識・技能を習得する必要がある。

《テキスト》

「改訂 学校保健」 東山書房

《参考図書》

《授業の到達目標》

- ①学校保健の意義や概要について理解できる。
- ②学校保健・学校安全を支える「学校保健安全法」の概要が理解できる。
- ③学校保健に関する問題に興味・関心を持ち、自ら、情報を収集し、まとめることができる。

《授業時間外学習》

予習：あらかじめ、テキストに目を通す。

《成績評価の方法》

- ①定期試験 70%
（中間試験を含む。試験は、テキスト等の持ち込みは不可）
 - ②各授業後の理解度テスト 30%
- *わからないことは、オフィスアワー等で質問を受け付ける。

《備考》

授業内容は、保健体育科教諭及び養護教諭を目指す人のための内容です。また、教員採用試験に向けての情報や学校現場での事象等を紹介する等、教員を目指す人のサポートをする。

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など
1	オリエンテーション「学校保健」の概要と重要性	・授業概要、成績評価等の説明について ・学校保健の目的と内容について
2	学校保健の歴史 ヘルспロモーション	・学校保健の歴史的変遷について ・新しい健康観について
3	これからの学校保健	・学校保健関係者の職務と責任について ・学校保健の組織活動について
4	学校経営と学校保健	・学校経営と学校保健の関係について
5	学校保健経営と人権	・児童生徒を取り巻く人権環境について
6	「学校保健計画」と「学校安全計画」	・「学校保健計画」と「学校安全計画」の意義と内容について
7	こどもの発育と学校保健	・現代のこどもの心身と体力等の発育発達状況について
8	学校保健活動	・健康観察 健康診断 健康相談と健康相談活動について
9	課題を有する子どもへの支援	・こどもに発症しやすい疾病とその対策について
10	感染症予防	・近年の感染症について その予防について
11	学校安全と学校の危機管理①	・学校事故災害の発生要因と実態及びその防止について
12	学校安全と学校の危機管理②	・安全教育及び安全管理について
13	学校環境衛生	・学校を取り巻く環境について
14	食育と学校給食	・望ましい食習慣の形成と定着について
15	まとめ	・「ヘルспロモーションの視点と教職員の役割の明確化」について

《専門教育科目 II 群（養護・保健に関連する科目）》

科目名	基礎看護学	科目ナンバリング	H2XB21014
担当者氏名	大平 曜子、細井 八千代		
授業方法	演習	単位・必選	2・選択
		開講年次・開講期	1年・II期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力	○ 1-1 社会・文化・自然・健康を理解する（知識・理解） ◎ 1-2 科学的根拠となるデータ・情報を収集する（情報収集力） ○ 2-1 健康課題に対処するための方法を学び、現代的ツールに習熟する（専門的技術力） ○ 2-2 複合的に絡み合う問題に気づく（知識の統合） ○ 3-2 効果的な意思疎通ができる（コミュニケーション力）		

《授業の概要》

看護の理念を確認しつつ、看護の対象、歴史、機能と役割、看護過程等について学びます。受講者は、基礎看護技術に触れながら、看護実践の基本を習得します。幅広い人間理解と科学的思考、健康生活の理解など、確固たる人間観や基礎的学習能力を養い、看護学への理解を深めます。看護の「人間と健康に対するまなざし」「相手の立場」の理解などを通して、看護の心を考えていきます。

《授業の到達目標》

- 看護の概念を理解し、説明できる。
- 健康レベルからみた看護について説明ができる。
- 基礎技術を理解し、説明できる。
- 看護行為の基本を理解・実践し、評価することができる。
- 看護過程を理解し、科学的・論理的に展開することができる。

《成績評価の方法》

最終試験（60%）、演習の課題（40%）
 演習評価の内容に関する質問には随時応じる。レポートにはコメントを付して返却する。

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など
1	オリエンテーション	授業の進め方や評価方法について
2	看護の概念	看護とは、健康とは 看護の概念を明らかにするとともに養護教諭の専門性との関係性を理解する。
3	看護の対象	看護の対象（疾病の成り立ちと回復） 看護の対象を理解し、看護活動について考える。
4	看護の歴史	看護の概念とその歴史
5	看護の機能と養護教諭	学校で必要とする看護能力、養護教諭の専門性と看護
6	看護の基本となるもの	各種の看護理論から看護の基本となるものを理解する。
7	看護の基礎技術 1. 環境整備	ベッドの整備、ベッドの条件
8	看護技術の基礎 2. 姿勢と体位	姿勢の保持、基本的な体位
9	看護技術の基礎 3. バイタル測定	バイタルサインの意味、測定方法
10	看護技術の基礎 4. バイタル測定その2	バイタルサインの測定
11	看護技術の基礎 5. コミュニケーション	コミュニケーションの概念、構成要素、方法
12	看護技術の基礎 6. 観察	観察の目的、視点
13	看護過程 1	看護理論と看護過程、構成要素、情報、アセスメント、判断、計画立案、実施と評価
14	看護過程 2	看護活動、記録
15	授業のまとめ	これまでの学習と得られた知見を再確認し、具体的な成果を説明することができる。

《テキスト》

『養護教諭のための看護学』（三訂版）藤井寿美子、山口昭子、佐藤紀久榮、采女智津江 編（大修館書店）

《参考図書》

- ①『最新看護学』中桐・天野・岡田 編著（東山書房）
 - ②『基礎看護技術 I』（医学書院）
- その他適宜紹介する

《授業時間外学習》

課題レポートのため、関係図書に目を通しておく。復習をしっかりおこない、正確な知識の習得に努める。医療的側面理解のため、人体の構造と機能について繰り返し復習しておく。技術の確認や科学的理解のために、実習室を利用して、積極的に練習をおこなう。

《備考》

養護教諭免許取得希望者の必須科目であり、演習科目として出席（参加状況）を重視する。主体的取り組みを期待している。

《教職に関する科目》

科目名	教職概論	科目ナンバリング	HTAL41001
担当者氏名	古田 薫		
授業方法	講義	単位・必選	2・選択
		開講年次・開講期	1年・I期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力	履修カルテ参照		

《授業の概要》

教職とは何か、教員の社会的役割は何か、教員の仕事とはどのようなことなのかについてさまざまな角度からアプローチし、教職の意義についての理解を深める。実際の「教師の仕事」を、授業、校務分掌、保護者や地域と連携の観点から捉えるとともに、法的な位置づけや立場を理解する。また、教員として求められる資質や能力はどのようなものかについて理解し、自らの課題を明らかにする。

《授業の到達目標》

- 教員の社会的役割とその歴史の変遷を理解している。
- 教員養成と教員免許制度について理解している。
- 教員の任免と服務について理解している。
- 教員の種類と職務、校務分掌について理解している。
- 教員に求められる資質能力と研修について理解している。
- 自分なりの教職観を持ち、自身の課題を省察することができる。

《成績評価の方法》

- ①受講態度（ディスカッションやグループワークへの参加度、発表回数等） 20%
 - ②提出物（提出の回数と完成度等） 30%
 - ③定期試験 50%（持ち込み不可）
- * 提出物はコメントを付して返却する。

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など
1	オリエンテーション	・本講義の進め方について理解し、主体的に学習に取り組む意欲を持つ。 ・教職とは何か、教員を目指すものとしての姿勢について考察する。
2	さまざまな教職観とその歴史の変遷	・教職観の歴史の変遷をたどりながら、自分自身の教職観、教員像を獲得する。
3	教員に求められる資質・能力	・教員に求められる資質・能力を、さまざまな答申やデータから読み解き、自分自身の課題を明らかにする。
4	教員養成と教員免許制度	・教員免許制度の法的側面を学び、教員養成の仕組みを理解する。 ・教員採用試験の概要を知り、採用試験までの展望を持つ。
5	教員の職務①：教員の種類と職務、校務分掌	・学校の教育活動を支える教員組織と役割分担、連携協力について理解する。
6	教員の職務②：学習指導、生徒指導、その他	・学習指導、生徒指導、進路指導、教育相談、その他の教員の職務について理解する。
7	教員の職務③：保護者・地域との連携協力	・保護者や地域住民との連携協力の意義を理解し、どのようなあり方が望ましいか考察する。
8	教員の職務④：アカウントビリティと学校運営	・学校運営のプロセスを理解する。 ・学校の果たすべきアカウントビリティとは何かを理解する。
9	教員の人事管理①：服務	・地方公務員法および教育公務員特例法等から教員の服務と身分について理解する。
10	教員の人事管理②：任免と服務の監督、懲戒	・教員の任免に係る制度、教員の身分保障と分限、懲戒等について理解する。
11	教員の人事管理③：教員評価	・教員評価の意義と課題について理解する。
12	教員の資質向上と研修	・教員の研修制度について理解し、資質向上のためにどのような取り組みを行う必要があるかを考察する。
13	教員の労働環境	・教員の勤務実態、労働条件について、事例にそって理解する。
14	教師という仕事—やりがいと悩み—	・教員としてのやりがいや悩みについて、さまざまな文献を通して教員の生の声を聞き、教職に対する自分自身の考えを整理する。
15	学習のまとめと振り返り	・学習を振り返って、教職とは何かを考察する。

《テキスト》

必要に応じてプリントを配布する。

《参考図書》

- ・東京都教職員研修センター（監修）『教職員ハンドブック 第3次改訂版』 都政新報社、2012
- ・石村卓也『教職論 これから求められる教員の資質能力』 昭和堂、2008年。
- ・『新任教師のしごと 中学校・高校版』 小学館、2007年。

《授業時間外学習》

毎回、授業の内容に関連したミニレポートを作成し提出する。配布された資料をあらかじめ読んでおく。

《備考》

授業中の私語や携帯電話の使用を禁止する。ルール違反に対しては厳格に対処する。

《教職に関する科目》

科目名	教育原理	科目ナンバリング	HTAL41002
担当者氏名	古田 薫		
授業方法	講義	単位・必選	2・選択
		開講年次・開講期	1年・I期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力	履修カルテ参照		

《授業の概要》

教育をさまざまな視点から検討し、教育と社会との関連や現代社会状況の中で直面する諸問題を考察することにより、教育の本質や基本原理に対する理解を深める。

《テキスト》

プリント（資料）を適宜配布

《参考図書》

中村弘行『人物で学ぶ教育原理』三恵社、2010年。
 広岡義之（編著）『新しい教育原理』ミネルヴァ書房、2011年。

《授業の到達目標》

- 教育の概念と本質を理解し、これらに基づいて現代の教育問題を分析できる。
- 主な教育思想、教育観を理解し、さまざまな教育方法や教育課程のありかたと関連づけることができる。
- 児童の権利と福祉について理解している。
- 生涯学習の理念について理解している。

《授業時間外学習》

参考図書・資料の関連する部分を読んで講義の予習をすること。わからない用語は、事前に調べて授業に臨むこと。

《成績評価の方法》

- ①受講態度（ディスカッションへの参加度、発表回数等）30%
 - ②課題の提出と完成度 30%
 - ③授業中のミニテスト 40%
- *提出物はコメントを付して返却する。

《備考》

授業中の私語や携帯電話の使用を禁止する。ルール違反に対しては厳格に対処する。

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など
1	ガイダンス	・本講義の進め方について理解し、主体的に学習に取り組む意欲を持つ。 ・教育とは何か、人間の特性と教育
2	教育の概念と本質	・教育の概念と本質 ・教育の必要性と可能性・限界
3	子どもの発達と教育	・発達とは何か ・発達における教育の役割
4	教育の目的、形態と機能	・教育の目的、形態と機能 ・教育における教師の役割
5	主な西洋教育思想とその系譜①	・子ども観の変遷 ・主な教育思想、教育哲学の系譜：代表的思想家とその教育思想の内容
6	主な西洋教育思想とその系譜②	・主な教育思想、教育哲学の系譜：代表的思想家とその教育思想の内容 ・教育思想、教育哲学が現代の教育に与えている影響
7	公教育制度の成立と発展①	・学校の起源と歴史 ・近代公教育の誕生
8	公教育制度の成立と発展②	・日本における明治期以前の教育 ・日本における近代学校制度の成立と発展
9	教育の内容と方法	・教授と学習の理論 ・さまざまな教育方法
10	日本における教育思想と教育方法の発展	・学校制度の発展と教育思想、教育方法（戦前まで）
11	日本における教育思想と教育方法の発展	・学校制度の発展と教育思想、教育方法（戦後）
12	教育における「ケア」	・「ケア」の定義、「ケア」の要素 ・教育における「ケア」、教育における公正と「ケア」
13	児童の福祉と保護	・児童の権利と福祉 ・児童虐待の防止と早期発見、早期対応
14	生涯学習	・生涯学習社会の成立とその背景 ・生涯学習の重要性、自分のライフコースのデザイン
15	まとめと振り返り	・学習マップの完成と発表による、学習のまとめと振り返り

《教職に関する科目》

科目名	教育制度論	科目ナンバリング	HTAL42005
担当者氏名	古田 薫		
授業方法	講義	単位・必選	2・選択
		開講年次・開講期	1年・Ⅱ期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力	履修カルテ参照		

《授業の概要》

教育行政の組織と機能および学校教育に必要な法令や制度の基本、キーワードについての理解を深め、教育制度や学校経営についての体系的な知識を獲得することを目的とする。教育制度の意義や概要を学習するとともに、最近の教育問題や教育改革の動向を、学校制度・学校経営の視点から考察する。

《授業の到達目標》

○教育法規の体系を理解し、主な教育関係法規名とその概要を説明できる。○教育の理念や目的・目標について理解し、義務教育の意義および特別支援教育の特質を説明できる。○教育行政の仕組みや学校制度について理解している。○学校運営について理解している。○今日の教育の課題と教育改革の動向を理解し、自分自身の考えを述べるができる。

《成績評価の方法》

- ①受講態度（ディスカッションへの参加度、発表回数等）20%
 - ②課題の提出と完成度 20%
 - ③定期試験 60%（持ち込み不可）
- ※提出物はコメントを付して返却する。

《テキスト》

授業中に指示する。

《参考図書》

- 1) 『解説教育六法 2017年度版』三省堂。
- 2) 坂田 仰、黒川 雅子、河内 祥子、山田 知代『図解・表解教育法規-“確かにわかる”法規・制度の総合テキスト』教育開発研究所、2014年。
- 3) 高見茂・宮村裕子・開沼太郎（編）『教育法規スタートアップ 教育行政・政策入門 ver. 3』昭和堂、2015年。

《授業時間外学習》

授業で配布したプリントに基づいてまとめノートを作り復習すること。授業でわからなかった点について調べたり、質問を用意したりすること。e-ラーニングを受講すること。

《備考》

授業中の私語や携帯電話の使用を禁止する。ルール違反に対しては厳格に対処する。

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など
1	オリエンテーション 教育行政と教育制度	・本講義の進め方について理解し、主体的に学習に取り組む意欲を持つ。 ・教育行政の基本原理
2	法体系と教育関係法規の概要	・法規の体系 ・教育制度の中心的な法規とその内容
3	憲法教育基本法制：憲法、教育基本法①	・憲法における教育に関する規定、教育制度の法的基盤 ・教育基本法の性質
4	憲法教育基本法制：教育基本法②	・教育基本法改正のポイント ・教育基本法の意義と内容
5	学校制度①：学校に関する法規	・法規上の学校の定義 ・日本と諸外国の学校体系の特徴
6	学校制度②：学校の設置と管理	・学校とその公共性 ・学校の設置と管理に関する原則
7	教育行政の仕組み①：文部科学省	・文部科学省と地方の教育委員会の関係と役割分担 ・中央教育審議会やその他の諮問機関の役割と影響
8	教育行政の仕組み②：教育委員会制度	・教育委員会制度の歴史 ・教育委員会制度の概要
9	教育を受ける権利の保障①：義務教育1	・教育を受ける権利、教育を受けさせる義務と義務教育制度 ・義務教育の意義と義務の内容
10	教育を受ける権利の保障②：義務教育2	・教育を受ける権利を保障するための制度 ・就学援助、教育扶助の概要
11	教育を受ける権利の保障③：特別支援教育1	・特別支援教育の理念および特殊教育との違い ・特殊教育から特別支援教育に移行した背景
12	教育を受ける権利の保障④：特別支援教育2	・特別支援教育に関する諸制度
13	学校運営①：開かれた学校	・開かれた学校の意義 ・地域との連携とコミュニティ・スクール制度
14	学校運営②：アカウンタビリティと学校評価	・学校アカウンタビリティとマネジメント・サイクル ・学校評価の意義と評価の形態
15	学習のまとめと振り返り	・学習マップの完成と発表による学習のまとめと振り返り

《教職に関する科目》

科目名	教育相談（カウンセリングを含む。）		科目ナンバリング	HTAL41011
担当者氏名	原 志津			
授業方法	講義	単位・必選	2・選択	開講年次・開講期
	履修カルテ参照			
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力				

《授業の概要》

近年の学校教育の重大問題として学力低下とこころの教育をめぐめる問題があげられる。このような状況に対して日常的に子どもたちと接する教師にできることは何だろう。しっかり見て、耳を傾けて子どもたちの声を聴き、子どもたちの気持ちを汲み取り、短い言葉で要約して返すというやりとり、すなわちカウンセリングの技術を学ぶことは、現在の教育現場においても、古くて新しい意味があるように思われる。

《授業の到達目標》

- ・カウンセリングの基本技術を学ぶ
- ・自分自身のこころに焦点を当てる方法を学ぶ
- ・子どもたちのサインに気づく
- ・こころの成長・変化のプロセスを知る

《成績評価の方法》

授業への取り組み30% レポート・確認テスト20%
 授業内容の理解 50%

- ・レポートはコメントを付けて返却する
- ・最終回の「まとめ」は、全体的な講評を伝える

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など
1	15回の授業のオリエンテーション	「人の話しをきく」ということについて考える
2	カウンセリングの基礎	カール・ロジャーズのクライアント中心療法について知る
3	カウンセリングの実習	カウンセリングの実習（ロールプレイ）を行う
4	カウンセリングのプロセスについて	カウンセリングのプロセスについて、カール・ロジャーズの理論から学ぶ
5	フォーカシングについて	カウンセリングの「体験過程」から、自分の内面に焦点化することを学ぶ フォーカシングの実習も含む
6	自分自身のテーマを知る	心理テストを体験し、自分自身のテーマを知る
7	こころと身体	身体に異常がないのに起こる症状について学ぶ
8	いじめの被害者・加害者への理解と対応	いじめは、学校で学ぶ権利を奪うだけでなく命を奪うことさえある。学校と教育の場でのいじめによって辛い思いをする子どもたちを減らすための取り組みについて考える
9	特別支援教育を必要とする子どもたち	本人が努力しているにも関わらず、発達に凸凹があり、できることとできないことの差が大きく日常生活に困難を抱えている子どもたちを理解し、支援する方法を学ぶ
10	子どもたちの育つ環境の問題	大人が子どもたちの発達を妨げている事例について学ぶ
11	箱庭療法について	箱庭療法が生まれた背景との理論について学ぶ
12	こころの治癒過程を知る	箱庭療法のDVDから、こころの治癒過程についての理解を深める
13	専門機関との連携	教師に、できることと・できないことは何かを知り、専門機関と連携する上でたいせつなことを知る
14	様々な事例	学校現場での事例を聴いて自分なりの対処の仕方を考える
15	まとめ	授業での学びをふり返し、今後活かすべきことは何かを考える

《テキスト》

教育相談ワークブック 子どもを育む人になるために 桜井・斎藤・森平 北樹出版

《参考図書》

『スクールカウンセラーがすすめる112冊の本』滝口俊子・田中慶江編 創元社

《授業時間外学習》

こころについて学ぶための本のリストを配布するので、できるだけ多くの本を手にとり読んでほしい。自分の最も興味ある一冊を選んで、用紙は問わないが、手書きで5枚の感想文を最終授業日までに提出すること。

《備考》

教職をとらない学生も受講可能である。